

アルクカラ
カンガエル

エイゾウ

目次

アルクカラ カンガエル
エイゾウ

イチ

ニセンジュウサンネンはる さくもつのサイバイをはじめた。わたしがちいさなころにさ
いていたタンポポがきになっていたからでもある。また、おやじが カテイサイエンをて
にかけていたからでもある。

タンポポの くきのブブンから うえがなぜかなかったり。あとになって、ショクリョウに
リョウされているのだろうとおもった。まあ、ちいさなピーマンのようだ。だからとい
うか、いや、むかしからはえていたので きになった。で、サイバイをはじめた。

そのチョコゴ、あるゲンジツと むきあうことになった。せけん というか、でうわさされ
ていたが、まあ ジッサイにであうとだ。ノウギョウヨウのヨウグをかいにいったサイに
それにみまわれた。

そうなってほしくないのはわかる。しかし、そなえなければいけなくもある。ノウチの
ヒガイも タイオウをとおもっていたが、こいイッパツが こないかぎり そうきびしいタ
イオウはヒツヨウなさそうだと。ニネンたってそうおもう。

ニ

チュウリュウ とはよくいったりすることばだが、チリテキな イミもふくめていうことに
きづくようになった。そして、トシのナンモン というかにもきづいた。いまのトシは カ
リュウのホウに あったりする。トシではセイサン（ノウギョウ）できないから、ショウ
ヒシャということばがうまれる。

サン

ニセンジュウヨネンはるに、オンミツ（エドバクフのミツテイだ）のシッパイがあった
カノウセイをみつけた。オンミツは カクショでカツドウしていたとおもわれるが、まあ、
エドバクフが ひとつのケンエキをおとしたと。それはやがて ナンポウへの シンシュツ
にもつながる。

わたしがいう、センシンコクビョウ（センシンコクのジャクテン）にも カンレンする
が、まあ、ダイエイテイコクにもっていかれたんだらう。だから、エドバクフのジダイ
には、ニホンジンのナンポウシンシュツはケツテイテキだったといえる。そういうシッ

パイがうかがわれた。

ヨン

シッパイに こだわるとしたら、サイドチョウセンするんだろう。キュウジュウネンダイに そうしたシッパイをカイフクするようにしていたとおもうが、ケイザイコウゾウにながされやすかったのだろう。セキユのホウに いてしまった。たしかにジュウヨウなシゲンであるが。

やりなおすのは むずかしい。だから、くみかえさくもつや シンカロンをシジしなくてはならないかもしれない。「ヘイワ」がおわれれば。

このジュウネンで くみかえは すすんだのだろう。ジュンスイなシュを まもるのは むずかしくなっているのでは。

ゴ

ジハンキは、このサンジュウネンでかなりふえたが、なつにつめたいのみもの、ふゆにあたたかいのみものしかうってなかつたりする。ふゆでも、アイスコーヒーをそういうことでない。ジョウオンのものが なかつたり ということだ。

ショウテンに たまにあるが コウバイのむずかしさをかんがえると、「あなたは あたたかいコーヒーをのむべきだ」とケツロンされるかも。そのくらい「ジョウオン」の のみものをコウバイするのはむずかしい。

しょうがなく、あたたかいのみものと つめたいのみものをまぜて いいオンドにさせたりすることになる。ま、ゼイタクといえばゼイタクだが、ネンリョウのムダづかい というきがする。

なぜ、ジョウオンではいけないのかと。ま、あつたかくて、うれしいときもあるのだが。たぶん、「センシンコク」として、ゆめのようなサービスをしなければならぬのだろう。ま、テキリョウずつ まぜあわせれば、テキオンののみものができる。パイリョウコウニユウすることになるが。そうか、ショウバイだ。

ロク

はながさくジキさかないジキがある。イッコシユルイのことをいっているのだが。でも、ま、はなの ツゴウなんだろう。さくジキがまちまちだつたりする。ま、かんがえてみれば、いまはふゆだといっても、みなみハンキュウのホウでは なつだつたり。ダイタンに いえば、どこかははるで、どこかは ふゆだから、あのはなは はるにさくといってもゴサがでるんだろう。

キョネン にわでさいたはなもよかったが、ことしのもよかった。とりもよい。ナナネン

まえは、むくどりのすをみてたり。そういえば キョネンのはる、むくどり きていたかな。アンガイキョネンのはるは ほとをよくみた。シゼンがおしえてくれるっていうのがあるかな。ノウサギョウをやるようになってから そうおもう。

シチ

わたしもそういうところがあるが、どこかしらに「あし」のモンダイがあるようだ。ジドウシャのことを「あし」とよんだり。トクにサッコンは ジドウシャシャカイ。そのキドウテキな「あし」がないとこまったり。みのまわりをみても「あし」があったりする。いす、タク。ヨウフウならねどこと。よつあしは ヒョウジュンテキだが、たまにすごいのが、でもみたことないのでやめておく。

ま、セイヨウブンカというか やすっぱいまねされただと、よつあしのうえにねるだろう。ま、うしとか、うまとかのうえにねる「え」だ。それだけシハイというものがカクリツされている、されようとしている、されていた。セイショのキジュツにあった。ただ、いくらブンカテキなジユウドがあったとしても、その「え」のようにセイカツできるのかと、どうてしまう。

いぬを かったことがあるが、それなりにアイジョウをもつし、そういう「ロウエキ」をよつあしにかけられるかと。ほかのドウブツでかんがえなくていい、ニンゲンでも、だれかがよつばいになっているうえでやすめるかと。ただ、その「え」を タッセイするような セイヒンはなにもいわないだろうと。それはそれとしても、そういうタッセイを（あなたやわたしのタッセイではない。タブン。）あじわえるのだが、イワカンなくリョウできるだろうか。

ま、ショミンのブンカでないと おもってしまう。

ハチ

おとし ゆずのきが のびていたのでていれをしようとおもったら、おふくろがさきにだれかにきらせてしまった。ケッカ とげができた。ばらも こうやってとげができたのかと ナットクした。のばらにはげんに とげがない。とげがあるのも あるかもしれないが。その「いかり」は イチネンほどではしづまらなかった。ニネンハンほどだったがまだのこっている。

キュウ

「き」でまけたら、やっぱりまけになる。ここでの「き」は、まけんき などの「き」である。ウンドウキョウギなどでのことだ。わたしは タッキョウでそれをかんじたが、ソウゾウというのも ダイジなんだろう。かつソウテイでキョウギをする。まけキチョウ（チョウシ）になっても ねばってかちキチョウをとりもどすと。ニセンジュウサンネン

にもそうおもったが、キョネンもそう。アンガイ ニンゲンカンケイもそうかもしれない。ダブリュハイ（セカイタイカイ）がロクガツにあったが、それもおなじ。やわらかいたまをけるのではなく、モクザイをけるとか タンレンにはいろいろある。

ジュウ

セツスイ（みずのセツヤク）のドリヨクをキョネンのはるにしていた。カンバツのケネンがあったからだ。みずをうまくサイリヨウしたり、ベンジョにながすのを へらしたりで、アンガイドリヨクができる。やっぱり ベンジョと フロとセンタクだろうか。ベンジョは むかしながさなかった（スイセンではなかった）。フロもむかしはなかったから、このふたつを セツヤクするとトウジっぽいろヨウになる。

フロのみずでベンジョをながしたり、ショッキをあらったあのみずで ながしたりもできる。ケッコウショッキあらいも ショウリヨウですまない。ちゃんと おけをよういしてあらうべきだろう。

ドリヨクのかいあって、ノウギョウヨウにみずをまわせたし、おもわれたカンバツにもならなかった。フロおけイッパイのみずで イッカゲツは ひとりブンまかなえた。ま、ケッコウなドリヨクだから、トシカしたニホンジンにはむずかしいチュウモンかもしれない。

ジュウイチ

ちょっと さそいがあつたらかんがえてみる。オンガクにさそわれたら、エイガにさそわれたら、（みるのではなくて）それをつくってみることを かんがえる。もし、あなたが ひまだったらだが、そういうことをやっているとタイクツしない。モチロン、すなおにみにいってもタイクツしないだろうが、おかねがでていってしまう。おかねをへらさずに、しかもタイクツしない。そうやってシュミはふえていくとおもう。カンセイケイに こだわることはない。じぶんなりにカンセイさせればいいのだ。

ジュウニ

はるには、シヨクブツのはがまっかにそまる。みなみハンキュウの あきだから、などと じぶんなりにかんがえる。おそぎきのはなんかもあつたりする。かんがえてみればトウゼンで、ニンゲンのツゴウどおりに シヨクブツがうごいているわけではない。そういうヘンカも いいとおもったりする。

でも、ま、みなれたのがいいとか おもうとそういうヘンカのブンを ていれしたりする。ま、なかなかヘンカにタイオウっていうのは むずかしい。まだまだベンキョウチュウ。

ベンキョウチュウ だからたのしい。すべてをってしまうとクツウかもしれない。ま、そうなるのは ダイタイとしよりになってからだろうけど。

ジュウサン

あめがきもちいい。よくカエルがなくこえをきいたもの。しかし ところによっては そうもいかない。そういう なきごえをきけるところが へっているかもしれないが、そういうところを イジしてほしいとおもう。トシばかりふえても たべもののうばいあいになるわけだから。ダイジにしたいものだ。

ジュウシ

くにのシュショウは いろいろなところによってはなしたりする。そこで、ワフク（きもの）では どうかなどとおもってしまった。ただのワフクではなくて、うごけるワフク。むかしはそういうかんじで サムエとか かんがえたかもしれないが、そういうワフク。ただのワフクだとロウドウシャっぽくない。だからうごけるもの。

ジュウゴ

フウセツテキな イリョウジョウホウがきらいだ。それを きいたひとは、なにかがなにかによい、とか、なになにをたべるとなになりやすい、とか、そのジョウホウをだれかにいってみたり。よけいなおセワだ、とおもう。なにかがなににいい、とかならまだいいが、そのてのジョウホウは ごジブンのあたまのなかに シュウノウしたままに しておいてくれる。

ダイタイイシャじゃないんだから、セイブツガクシャでもないだろう。もとめられたときだけにしてくれて。「クンシ あやうきに ちかよらず」 である。

ジュウロク

めしに ショウユをかけてショウユハン。くろずをかけて くろずハン。でもおいしいのは リョウリののこりじるをかけたごはん。「のこりじる」というのではなさないかもしれない。「あまったたれ」といおう。だからどんぶりにするんだ。

ごはんのばあい、たれが のこったさらにごはんをうつして、たれをつけてたべるのが むずかしいからどんぶりになる。あげものをしたあとの あぶら（いいものを あげたのならトクによし）をつかって やきめし。これもうまい。

ジュウシチ

かきごおり、むかしはみどり、き、あか、とかぐらいの たれ しかなかった。そのあと、あおとかむらさきが くわわった。でも、カテイで、シハンの たれをつかいつくれるようになってからは、かきごおりにかんするキョウミはうしなわれた。しかし、いまかんがえてみれば、あるくにて たべた、ギウニュウとくだものをのせたものは すごいとおもう。

ジュウハチ

おおきな ソーセージ (バツないいかたがあるが まあ) をたべた。ニホンジンなら、ちくわとかを たべるのがただしいか、かまぼことか。それができなかつたりするから、「アイデンティティ」だなんだのむずかしい はなしをするのだとおもう。

ジュウク

うまかつたとおもう ヤタイリョウリジョウイサンイは、イチイ、テンプラ (いわゆる、テンプラでなくて、ポルトガル [だとおもう] リョウリとしての、テンプラである)。ニイ、ハンバーガー。そういえばこのまえみかけたが、かうのをわすれた。サンイ、ぎょうぎ。やきとりもいしい、ステーキはあいにくたべたことがなかった。でも、やっぱり、ヤタイがそこそこキョウソウしているから うまいんだと。そういえば、さかなのしおやきもいしい。とうもろこしを やいたものは サイキンみないような。

ニジュウ

しごとは ジブンをつさける。しごとをしないとあたらしいしごとが あったとしてもみのがしてしまいかねない。しごとをしないと、タイクツになって、ショウヒシャになりかねない。

はじめは、しごとっていったって あかじだらうし、ばあいによっては かってやるようだろう。しかし、そのしごとをやっていけば、タイクツしないしそのほかにそんなにかねをつかわない。タンジュンないかたをすれば、シュミがコウじてしごとになるような。わたしもオンガクとかやっていて、ロクオンしたものをつくれる。ほかには、ズイヒツをしたりで、こうやってほんをつくれるようになった。ほかにも エイゴとか リョウリとかまた、セイヒンもつくっている。

しごとをしていれは うまくなるし そうすればよりヒンシツのたかいものをつくれる。ほかにも あたらしいクフウをおもいついたり。なにもしなければなにもしない。わたしは、しごとの「き」を そだててみがる、というふうにおもっている。しごとをそだてると、はたさくもショウシンシャだが、いろいろあつておもしろい、はながさくときれいだし、みができればしめたもの。

ニジュウイチ

かかないとジをわすれる。わりといわれることである。かといってムダにかいてもしょうがないし。なら、からかきをしよう。ジをかくすぶりである。

ニジュウニ

わたしは なにかをタッセイするとマンゾクをおぼえたりする。いったことをやる というのはわりとよくあることだ。でも、チュウガッコウで いった エイゴのモンクはいまだにタッセイしてなかったり。「アイ プレイ テニス」なんかはそのテンケイである。「アイ プレイ ギター」はタッセイしたがたまうちのホウは、タッキュウ（テーブル テニス）はやったりするものの、タッセイはされていない とみるべきでは。

だから そういうエイゴキョウイクを カイゼンしたホウがよいとおもう。「どうせ、うそだろ」じゃしょうがないのである。いつかたまうちを タッセイしようとおもっている。こういうわけでニホンのエイゴキョウイクは コクサイテキに サイテイとされているようだ。

ニジュウサン

まえにみずのセツヤクをしている はなしをした（●ジュウ）。センタクもそのドリョクのイチブである。センタクキをまわせばそれなりにきれいになるが、みずを セツヤクしているときのキジュンからいうと、ハツカブンとか つかってしまう。だからてあらい。でも、センタクにつかったみずをながさないで、サイリヨウするホウホウもあるが、テキトウなホゾンヨウキがなかったので センタクにつかったみずのサイリヨウはできていなかった。

どうせなら センザイをつかわないてもある。タンジュンなシゼンケイのセンザイならいいが、そういうのは みつからない。そのままはたけとかに まければいいのだが。タンジュンな よごれはまあまあおとせるが、カガク（ヤクヒンなど）よごれはなかなかむずかしい。それを どうおとすかが コンゴのカダイである。

ニジュウヨン

サイキンのデンサンキ（モジをうったり、ブンショウをおくったり、インサツしたり、かいものをしたりする あれである）はふたつのサギョウをドウジンシンコウさせるらしい。それがすごいのかというと、まあ、しごとができる、はやい、ということなのだろう。

しかし、ジュウキュウセイキのエイコクでは、みつつのしごとができるひとがシツギョウしていたらしい。だから、タンジュンに言えば、ふたつのサギョウでも、みつつのしごとでも だめなんだろうと。だめじゃないんだけど、それじゃ シツギョウシャのなまこいり。

じゃあ よつつかなのだがそういうデンサンキもあるようだ。だから よつつのしごとはいまのキホンといえそう。ただ、いつのダンカイで、ふたつのサギョウをするデンサンキを、シツギョウさせるかはわからない。

ニジュウゴ

さきに、みつつのしごとができるじゃあまいとかいた。ゲンザイは よつつのサギョウができるデンサンキがあり、また、ニンゲンも よつつのしごとをできるぐらいがジュウキュウセイキのエイコクのキホンだったようだ。たしかによつつのしごとではできなくなる。しかし、よつつのサギョウができるデンサンキに、ぼううで（ロボットアーム）をつけたら、ニンゲンのロウドウシャがシツギョウしかねない。だってユウシュウなんだから。ガッコウでまなぶジョウホウもちいさいキロクブヒンにおさまってしまうし。じゃあ どうすればいいかという、やつつのしごとをすればいいだろうと。「デンサンキをこわせ」じゃ「またか」になってしまう。センジュカンノンのえがうかぶ。かしこいひとは、デンサンキからまなんでいるんでしょうね。

ニジュウロク

もし、あしたに ダイハカイ（とんでもないソウラン）がおこるとしたら もう くにはやくにたたない。ダッシュツヨウのウチュウセンが ハイビされているとは きかないし、もし ひがしがわのくにでも、ドクジに ダッシュツをこころみるのだろう。そういうイミでの「コッカの おわり」はカクジツそう。

ニジュウシチ

なつかしいあじ。おいしいよりも、そういうあじがカチがあるかもしれない。カテイリョウリの デンショウがおこなわれていなければだけど、デンショウは なかなかむずかしかったりする。

あるとき ニセンジュウヨネンのゴガツだ。あげものをした。タンにあぶらのショウミキゲンぎれが ちかづいていたのでやったのだが、なべを イロリのようなところにおいて すこしずつあげる。あげものは だれかが タイリョウにあげてでなく、それもいいんだけど、すこしずつあげてたべるのがいい。ケツキョク なべぶぎょうのようなひとがはしをもつにしても。

えびをあげたり、やさいをあげたり。いいあぶらをつかうのがこつですかね。つけもの

をヨウイしておくと すっきりする。もちも いいしうまくやれば いためごはんもできま
す。あと、だしのでたあぶらはおダイジに。おいしいですから。

ニジュウハチ

きられて きずついたゆず (●ハチ)。イチネンたって、ちょっとだけみがとれそうだっ
た。それをわすれてセンチイしてしまい、そのちょっとだけの ちいさいままの しゅうか
くのみとなった。でも においはするし ほんものである。

それをみずにいれて そのみずをのんだ。うまい。ラムネとか レモネードとかいうけど
そういうことだ。「ラムネ」は ライムを、「レモネード」はレモンを。ゆずだから ゆずす
いにしとく。あとから あじつけをしてもいいがそのままがうまいかな。ゆずプロもいい
ですが、ネンカンとおしてのめるゆずすいもいいと。ま、シハンのでもできますが。

ニジュウキュウ

きというのは、ホンライテキに、したのホウのみきがロシュツしているのかと。しっか
り カイソウテキになった きはみごとだが、ニンゲンが てをつけてしまって、したのホ
ウがロシュツするのでは とおもう。だから うえのホウにハンモすると。もし、ニンゲン
が てをつけたとすれば、なぜはしごをつかわなきゃ みがとれない かたちにするんだろ
う。はしごやのサクボウか、っておもう。でも かうホウも わるいんだな。

サンジュウ

サイキン、ショウユヤソースをかけて (ごはんにでなく、おかずに) たべることをして
いない。たれがあるとちがうのだが、それをいうなら、チュウカそばが ヒジョウにもっ
たいないともう。あれ、しるをのこすひと おおいでしょ。ゾウスイみたいにしてたべ
ればいいけど、はやらないのか。

チュウカそばの たれは いろんなリヨウリにつかえる。タンにコクモツをたべるだけでな
く。うみをわたると、そばのうえにギウニクをのせたりするが、そういういいものに
あのたれをつかいたい。やきぶたも わるくないが、さかなとかにもいいたれでなかり
か。あじのみそだれとか、さばのとんこつふうみとか。もうひとついいたれがありますが、
それはナイショ。

サンジュウイチ

「のぼら」や「ます」(たしかシューベルト)などのキョクがめざましドケイに キロクさ

れていたものをつかっていた。そういうのをつくろうとおもえばつくれるんだろうけど、ケイタイデンワでやるてもあった。そのホウがてっとりばやい。

ジュウゴネンまえのケイタイデンワでそれができて、サイキンのだと ガッシュヨウまでならせる。さすがにそんなユウガなキブンでおきたいとはおもわないが、「ごシュジンさま、キシヨウのおジカンです」とかなまごえをキロクしためざましができる。まあ、もっと ゲビたかんじで やったほうがいいんだろうけど。

サンジュウニ

ゆずすい（●ニジュウハチ）のかわりに、たまたまてにはいらなかったので、りんごすいをつくった。まあ、これもうまい。ただ、あまりすっぱいのだと なさけなくなってくるので、すっぱいには なにかたしたホウがよいとおもわれる。

サンジュウサン

ニクとニクじる、どっちがダイジなのかと。やっぱりかたちというか シツリョウのおおきいホウがダイジなんだろう。なにしろニクだから。だからといってニクじるもすてがたい。でも、かつおだしとかで、ニクのホウをダイジにしなかったから（ほかのリユウがあるにせよ）ニホンジンはタイカクがちいさかったんだろう。いまはカイゼンチュウか。ヘンに ニクのあぶらみをありがたがったりしているみたいだけど。わたしはしもふりよりあかみハです。

サンジュウヨン

「チンモクはキンなり」と、わかいころはそんなことばもわすれて なにかしゃべろうとしたり。いまでもついしゃべりすぎた というのは ありますが。ケツキヨクなにもないのがよしで、それをおもんじると。なかなか、なにもない、にもっていけなかったり。でも、「かがやき」はひとを だまらせるというフウにもかんがえられる。でも、ニンゲンって、しゃべりだしたら ケンカするぞっていう カクゲンかもしれない。それぞれですからね。

サンジュウゴ

もし、ひとがキンだったら、いえは「キンコ」。たくさんはいる「キンコ」もあるし、あまりはいらぬ「キンコ」もある。でもいい「キンコ」は、いい「キンコ」なんだろう。でも、リュウツウというか、たまには そとに でまわっている かんじがいいですね。

サンジュウロク

オンガクをやりはじめてニジュウネイジョウたつ。ゴ、ロクネンまえから、わりとふつうのオンカイはそこそこひけるようになって、ハンオンあげたり、さげたりのレンシュウをするようになった。で、ジブンなりのリロンというかオンカイをかんがえたり。で、イッコおもしろいオンカイをみつけた。ま、キカイがあればヒロウするのも。カラオケというのは、エンギみたいなのですきでないが、ドクソウするのにいいかも。ドウヨウみたいなのはなつかしくおもう。カラオケじゃ、モホウにすぎない。ツイカテキな「ドクソウ」なら、いいしごとかもしれません。

サンジュウシチ

ダブリュハイサッカー。キョネンはジカンがなくてあまりみることができなかった。ま、ゴネンまえのタイカイではちょっとネットをいれてみていたが、キョネンのはである。ま、ニカイセンにいけるかぐらいにおもっていた。でも、いけなかったみたいだ。

「カップ」というのにゲンブツは「カップ」じゃなかったり。だからスープとかさけとかあれつかったのめないな。

サンジュウハチ

めしとヤサイもりをカゴウさせたらどうなるか。ヤサイずしとはいわないか、でもそういうフウミになる（タンジュンなたれをつかえばトクに）。ヤサイぎらのホウにニクがあれば、ケッコウなごちソウに。ちらしずしとか。それにきづいてからしばらくは、ごはんとヤサイもりがでるたびに、すしにしてたべていた。くろずめしもなかなかうまい、いわゆるくろずでないのですが。

サンジュウキュウ

ケッキョク、たたかいてというのは、くにとかおおきいもののためにでなく、アイしたちいさなもののためにたたかうのではないか。だからくにのヘイにはキュウリヨウがヒツヨウなのだろう。

ヨンジュウ

ゼンコウ、よいおこない、をつみなさい、とおもう。アクギョウより ゼンコウのホウがいいし。タンジュンにキゾウしたり、ロウドウリョクを だしたり。ジブンにも まわってくればたすかるし。ま、ゆずれないブンはあるけど。

ヨンジュウイチ

おとなになるっていうのは、あるブンをダツピすることだとおもう。ま、こどもようのブンとか、ミジクなブンとか。キョクロンすると、キョウイクでうけたナイヨウからも ダツピしたホウがいいだろう。ナイヨウというわけは、キョウイクでうけた ガクシュウするような ギジュツはダイジにしたホウがいいとおもうからである。

ナイヨウは どうせ だれかが かんがえたことで、デンサンキのコガタキロボヒンにおさまってしまうようなことだからである。わたしやあなたが かんがえたことでないし。ぶつぶつってあそびたきや、キョウイクテキな なにかとあそんでいるのもいいかもしれない。

ヨンジュウニ

「にが」という のみものをつくった。おチャとは またちがったかんじで。ただ ホゾンにはいろいろなやりかたがあるのだと きづいた。トウキにいれておけばハッコウしたりするし、すきとおった、トウキ、いわゆるガラス では あまりヘンカしなかったり。ハッコウしたものは つかいみちが まだおもいつかない。

ヨンジュウサン

ノウギョウをやって、laissez faire (ジユウホウニン) が ダイジなんだとおもう。そりゃそれぞれのジジョウがあるし。ダイコンなんかも ほうっておいたらたねができて、しっかりそだっています。へんに てをくわえないというか。

ヨンジュウヨン

そういえば、くみかえさくもつをつくっているところがあるんだ。まあ、シュウリョウを あげたいっていうのはわかるけど、ちょっとの くみかえでも ビンカンなひとは どうかとおもってしまう。わたしも そういうのをイッカイそうじしました。ショウクブツドウシの エイキョウもあるみたいで。

でも、ジュンスイに こだわっていれば シュウリョウがおちるんだとおもう。シンカをみるとめれば シュウリョウは イジだけどもとめなければ おちると。それなりにていれをするわけだから。ま、またかんがえたい。きにしなきゃだけど。

ヨンジュウゴ

おとなのフットボールとはどんなものか。あいてのゴールに、「ゾウトウヒン」、さけとか、ハムとか、ゴミとかをうちこむ。ゴミじゃないホウがいい。でも、セイキュウショがとんできたならソシしなくてはいけない。ニホンのセンシュがハイタイしてイチネンハンたとうとしているが、もうつぎのヨセンをやっている。ただ、ショミンにとってダイジなのは、おとなのフットボールだ。

ヨンジュウロク

おふくろのてリョウリは なつかしい。でもとしがたつにつれ シンカしたとおもう。なぜか よくつくっていたリョウリはコンビニエンスストアの ソウザイの ふくろづめとしてならべられたりして、ま、つくるひとがかわっただけだが。ベンリになったことといえば、チュウカフウの リョウリならたれをかってきて つくれたり、なべものも つゆをかってきて つくることのできるようになったこと。おこのみやきがたべたかったが、それも もとがあった。たこやきのもあるんだろうか。

ヨンジュウシチ

なぜ、コウセイショウ（ギョウセイキカン）が、コウセイロウドウショウにかわったか。「コウセイ」をあるテイドしたら、つぎは「ロウドウ」をしてくださいと。ケイサンショウもそうだ。「ケイザイ」がよくなったら「サンギョウ」してくださいと。ま、「ロウドウ」も、「サンギョウ」もしているかな。だから、「ノウギョウ」をがんばったら、「スイサン」もしなくちゃまずいかな。イチオウ ヨウショクのジッケンはしているけど。

ヨンジュウハチ

なぜ「ベッド」なのか、ねるのにつかうのです。ふとんでもいいはずだが。よつあしだったり、むつあしだったり。よつあしって、うしとかのうえでねる「え」ですわ（●シチ）。おれは そんなにできたひとじゃないとなれば おりるしかない。ふとんでジュウブンと。セイヨウテキな とうかシハイによって カノウになるんですかね。ベツにキリストキョウトじゃないからたたみにねないのです。ゲンダイの「ふみえ」かもしれません。いすもそうですね。やっぱりザブトンですかね。

ヨンジュウキュウ

なぜ かみにかいていた ショをパソコンでうつようになったのか。どうでもいいブンショを かいていたうちはきづかなかったが、ひとつ、コウセイするてまをはぶくためだとおもう。たぶんジドウコウセイキノウを たよりにってことなんだろう。

ゴジが みつかったらとか ちょっとレッカしたら ジドウテキにシュウセイすると。そうすればてまがはぶけると。しかし、ヒョウケイサンキノウはあてにできない。なぜなら ひどく ジドウシュウセイのケッカかは わからないが、レッカしてしまったから。それなら かみのホウがアンテイしていますよ。タショウ コウセイするのは くせとしてのこしておいたホウがよいと わたしはおもいます。

ゴジュウ

セイヒンのリョウが おおいとカンリがタイヘン。だから、レキシをとじてしまって、おなじセイヒン、シュリョクセイヒンだけをつくったりするのだろう。でも、わたしはまだ、レキシをとじようとはおもわない。レキシをすすめているホウがたのしいから。

ゴジュウイチ

ゴミが おおいとタイヘン。しごとがすすまなかったり。だから キョクリョクゴミをださないようにしたり。マイバッグというのがあるけど、それをもっとすすめて みせにヨウキをもっていったりドリョクのしようはあります。

ゴジュウニ

ジョウホウもまたセイリがタイヘン。デンシメールなどは いまのところ イッコイッコ ショブンしていますが ジカンのムダだとおもってしまう。むかし、ストックしていたときは すこしずつデンシメールをショブンしましたが。いまでは ジュウヨウなのだけ かみにアウトプットしようとおもっています。それでゼンブショブンしてしまったり。ジカンのムダはもったいないから。

ゴジュウサン

キョウイクは ブンカをかたくすること。でもケツキョク、なんかの あととりにでもならないと、そのキョウイクトウシからシュウエキをあげることはできない。たしかに「しる」ひとにはなれるが、やっぱりつくるとなると セイトウセイが ヒツヨウになったり。だから わかいひとはジブンで かんがえたホウがいいのだろう。デシになるだけじゃたべていけない。それなら ジブンでかんがえてとおもう。

シュミをもちたいのならまなぶのもいいかもしれないが、そんなかねもちじゃないなら、ジブンでかんがえつくるべきだ。で、デシでも もてば キョウイクをするのかな。わた

しはかんがえたいから あまり しごとにカンケイあるようなホンや ザッシはよまないようにしている。でも、ホンをよみたくなったりするから、シュミのガクモンブンヤのホンをよんだり。しらないことが いまは ダイジかもしれない。どこかにニューモンするならともかく。

ゴジュウヨン

フンをうみにながせば、うみにシゲンというかがたまる。ハイセツブツ といったって、こしたあとのショクブツ、ドウブツセイブンだから。ま、それをうみにながしていると。ま、すくなくともかわには ながしている。だからうみにも みたいなのがハッセイしたりするんだらう。

むかしみたいにはたけにまけば、わりとちかいところで ジュンカンする。でもスイセンベンジョは やめにくいんだらう。ショクブツだけなら はたけとジブンとで ジュンカンするだけだ。ムダがないからヒリョウも そんなにいらないだらう。

ゴジュウゴ

なつだったら、ためいけ（プール）にいてホンをよむのがすきだ。うみがちかければうみなんだらうが。はれたひにのんびりと。たまに みずにつかって。でも キョネンまでのサンネンカンはそういうやすみは とれなかった。ことしは ひさしぶりにいけました。

ゴジュウロク

マージャン。「すごい」マージャンは、ニハンであがったら、ふたさらリョウリがでてくる。ゴハンだったら ゴさら。すごいリョウリニンは、つぎになんさらであがるかを ヨソクして、あがるまえにジュンピ。あがったらすかさずだす。

そういうマージャンがあったのかはフメイですが。

ゴジュウシチ

むくどりに すをテイキョウしたことがある。あまどのシュウノウバに むくどりがすをつくったのだ。しばらくすると、ひなが くちをあけてなくようになった。つがいのカタホウがすのちかくでケイカイしていた。すをのぞくとうるさくないた。ビスケットかなんかをさしいれしたが たべただらうか。ま、いいものをみつけてくるんだらうな。どうも おふくろが いやがるようで、ニカイめはソシされてしまった。

ゴジュウハチ

わりとサイキンとりにえさをやっている。なんかはらをすかしているようなそんなきがしてあげている。まえはちょっといったところにとりや（はとにえさをやっている）というかがあったが、みせをしめてしまったようだ。ま、ふゆだとショクリョウがすくないのだからケッコウたべていたな。

ゴジュウキュウ

ダイコンをそだてたがコウチョウでニダイめができそうだった。できそうだった、というのはカジンにショブンされてしまったからだ。それもキョネン、ことしのニカイ。ニンジンなんとかニダイめがそだっている。ヨウスをみたら、ちいさくそだっていた。このふゆでねがそだつんだらうかとキタイしている。

ロクジュウ

ごはんにくろずをかけてたべる。くろずといっても「キンダイ」くろず。ショウユハか、「キンダイ」くろずハか、というといがあったがわたしは「キンダイ」くろずハ。あさめしをよくそれだけでたべた。でもエイヨウブソクである。いまかんがえろと。

ロクジュウイチ

サイキン、ユニウもののスパゲッティとかうっているけどやっぱりほんものはすごい。こむぎのあじだけでなく、こうばしいフレーバーとかがあったり。やっぱりすごいのはちがうとおもってしまう。それに、スパゲッティのすごいところは、みずでゆでられるんです。おゆ、じゃなくて、ジョウオンスイ。ちょっとジカンがかかりますが、ケイサンすればダイジョウブ。ネンリョウがなくてもたべられる。だから、ヒジョウヨウにもいいでしょう。イッカイ、そばもジョウオンでゆでたらぐちゃぐちゃに。ま、あがりかはやいのでしょうか。ケイサンですね。ヒジョウヨウにためておくことにしようとおもいます。

ロクジュウニ

キュウカになにをするか。ゆくゆくはつりをしたいが、ま、てがるにできそうなの。それと。わたしも「アイ プレイテニス」って いっちゃったから（●ニジュウニ）テニスと。みちのえきとかでたべあるきをしたいけど、あるきとかジテンシャではなかなかできるもんじゃない。ケッコウとおくにいけないとだから。ショウテンガイのたべあるきは

どうか。でも、あまり、トクサンヒンがうられているきがしない。ケツキョク、ことしは、スポーツカンセンをはじめました。

ロクジュウサン

ちょっとまえによくたべたおカシは、いもガシと まめ。ソボクでいいとたべていたがサイキンは あじつけのこいものをケッコウたべている。まめは、ダイズをいったものだが、たべすぎなくていいとおもう。こめを あげたものもいいな。たべすぎない。コクサンヒンもあるし。サイキンラッカセイなんか チュウゴクサンばかり。ガイコクサンをたべるのなら そのくにのひととなかよくしなければならない。スイメンカというかで カットウがおこりますから。ティティピーをすすめるとやっぱりそういうモンダイも。ゴジュウゴネンタイセイ（ジミンセイケンによる）はガッシュウコクと なかよくしておけばだったけど まあ、いろんなところとコウエキをすると なかなかむずかしそうですね。やっぱりジミントウタイセイのハウが わかりやすいかな。ま、コクサンにがんばってもらいたいです。

ロクジュウヨン

ニクマンはおいしい。ショカツ（チュウゴクの カンのジダイにカツヤクしたとされる）センセイをおもいですが、そのショカツセンセイがつくったセイヒンが ニセンネンちかくたつても のこっている。ニクをいれたマンジュウというやつである。

ただ、ショカツセンセイはシッパイをしたとおもう。なぜなら、ジブンにできないことをカン（おなじく）ショウグンに ヨウキウしたことだ。だから ケツキョクあまりいいハウにいなかった。もっとショウグンを おくればよかったのかもしれない。

ロクジュウゴ

マルクスはなにをのこしたか。キョウサンシュギコクとだれかがいうかもしれないが、わたしにとってはそうでない。いや、それもあるけどだ。ケツキョク、シホンカがつよいのはしょうがない。ロウドウシャは はたらいてかねをてにする。だったら、ウンドウするジカンをけずって かねをてにしたほうがよいのではないかと。つまり、はやいものがちだと。だから、すぐにやらなければならない。

たしかに ウンドウをして タショウチンギンはあがるかもしれないが、そのためについやすジカンは、そのジカンはたらいていたら どのくらい かせげたかをかんがえとどうなのかと。ケツキョクシホンカがはらったりするんだろうけど そのキギョウはシキンテキによわる。それはロウドウシャにとってどうなのか。ソレンのようにセイコウした、する、かもしれないが、キョウソウではうまくなかった。いいコウエキができないとなれば、その、シホンカ、キギョウはよわっていく。それだったら、すぐにしごとをしろと。そういう、マルクスのキョウクンはいかしたい。

キョクロンすると、ハンセイするまもないのだ。だから、コンサルタントなんだ。コンサルタントになりたきゃケンキュウするといい。でも、ゲンバがダイジじゃないかと。それに、そのしごとのセンクシャもいる。レキシのケンキュウをしているようじゃニリュウだと。シュウエキを あげられるんならいいですが。

ロクジュウロク

ダブリュハイとか うたばんぐみとかそういうときだけガメンをみたいとおもう。それならレンタルでもなんだけど、それができるほどキョウキュウがブンサンしていないのかな。もうちょっとみるばんぐみがシュウチュウされれば、レンタルでばんぐみキョウキュウもカノウだろうか。わたしは、みたいバングミがあると そのときだけデンサンキでみるようにしている。ほかは、おとだけのジュシンでジュウブン。いまならあとでディブイディスクもあるし。

ロクジュウシチ

よくセンエンのみカイをやった。ま、ジブンいがいハセンエンごえだったりするのだが、かってきても、のみにいってもセンエン。くわなきやセンエンブンのめるわけだから。やすいショウチュウの ボトルとかを たのんでしまえばケッコウのめる。のまないならニヒャクエンのジュースとか。アンガイのめるものです。

ロクジュウハチ

ちいさいとうもろこしとか、ちいさいトマトとかある。でも、ちいさいたけのこはカノウだろうか。さがよくはえるので、カノウといえば カノウなんだけど、はえるまえにほりだすって むずかしそうだ。このまえもさがそだっているのをカクニンした。しかし、はえるまえに みつけるのはむずかしい。チンミみたいなあじつけにしたら うまいとおもうが。

ロクジュウキュウ

キョクをつくるときに やくにたつのがテープレコーダー。いまは アイシーレコーダーとかがよくでているが。ロクオンして あとでフメンにしたり。むかし、ミュージシャンがそういうつかいかたをしていたときが、たしかにつかえる。ただ、テープレコーダーは いま しなうすなのでこわれるとつらい。キョネンもイッキこわしてしまった。キーボードにむかってつくるよりシゼンなかんじになるかな。

ナナジュウ

シャシン。いまは デジカメとかケイタイデンワのカメラとかが おおいようだ。でも コンビニでカンイコウガクシャシンキがうっててたすかる。ソクセキシャシンキとかいまほしいとおもうがセイサンをチュウシしたときいたことがある。フィルムというかがてにはいるんだらうか。あるキギョウのは うっているらしいが。

ナナジュウイチ

さかな、きづかなかったけど、タイリクではさかなはキチョウなんだ。しまぐにってことをわすれていた。ま、ユソウはハツタツしているんだらうけど、うみまでヒヤッキロとセンキロでは おおきなちがいだ。コウキュウチュウカリヨウリのようなのが、ショミンテキナショクドウでみられないわけがわかる。ニホンだったら せいぜいうみまでヒヤッキロだからできるんだらうけど、タイリクでのさかなリヨウリはコウキュウだと。

ナナジュウニ

おチャに あまガシ、だから しろコーヒーにあまガシでもいい。でも いわゆるあまガシは マイニチ たべるようなものでもないようなきがする。だからあまコーヒーか。ちょっとまえは、センベイとかじゃなくて、いもガシ とかいりダイズが きにいていた。そんなキョウレツなあじはしないが、まあまあおいしい。なかなかすすまないからというのもあったが、なれば たべてしまうもんだ。こめガシもいい。

ナナジュウサン

おとし、エンカをつくろうとおもって (おおきなイミでの「エンカ」)、しばらくたって、キョネンようやくネンガンがかなった。まあイツキョクだけだけど。ジュンスイなエンカはむずかしいかな。おはやしとか みたいなのもむずかしいし。ま、なれというかなのかな。それはそうと、キョネンからふえをふきだした。イゼンに おとがきにいててにいたのだが、しばらくほったらかしだった。しかし、それっぽいようなキョクができたので サイチョウセン。ふえジタイはへたくそだが、それヨウのキョクはかきつづけている。そのキョクをサギョウをしながら うっすらかけるのもわるくない。でも、ふくのはなかなかジョウタツしない。

ナナジュウヨン

タッキウをやったりする。あれのおもしろいところは、ジブンの きがまえでケッカがちがってくるというか、まけるきならまけるし、そういうヘンドウがおもしろかったりする。ドウじないのが タイセツかな。サッカーなどのしあいをみても、たとえば、ニホンチームにはそういうジャクテンがあったり、ま、みるほうも やっぱりなんておもったりすると そうなったりする。つみかさねシダイなんだけど、ま、あタイカイじゃつよいチームがでてくるわけで。ま、ドリヨクですかね。

ナナジュウゴ

「キンダイ」くろずごはんはすきだけど、カンキツごはんをやってみたい。レモンごはんとか、すしフウにならさかなをのせるんだらうけど、とりあえず それだけでも。でも こめずをつかうのがただしいのかな。

ナナジュウロク

「スカッシュ」というのかにキョウミがある。かべをあいてに たまをうちつづける。わたしも たまけりをかべをつかってよくやっていた。かべは シンのシコウテイがハツメイしたのかな。「バンリのチョウジョウ」がある。いや、そのまえからジョウヘキがあったらしいから、もっとむかしのひとのハツメイなんだらう。ま、でもイダイなハツメイだ。

ナナジュウシチ

ここしばらくかわらないが、「セイギ」っていうのが むずかしい。だれかがそれをシュチョウしても、いや、こちらが「セイギ」ってのはなしになるから、それじゃしごとをするか とかなったり。「テロ」もそうだ。グンを だすのもそう（テロ）だろとか。しょうがないからリョウイキにわけて、「セイギ」をイジするのかな。「セイギ」というオウミたいなのをたてて、それぞれやっといこうとするわけかな。でも、カクダイしようとしたら たたかいになるね。

でも、うみにでで、コウカイジョウで「セイギ」をシュチョウできそう。カイゾクとかいわれるだらうけど。そのジャクテンは、シヨクリョウ。つくればだけど、どっかからかわなきやならない。だからむずかしそう。イッパツあたればしずんじやうし。それが「セイギ」としたら もろい。だから、フツウは、「セイギ」の ジュンドをひくめて、タイキウセイを あげるのかな。うみじゃなくてもシヨウトツすれば、しんじやったりするわけだから。

ナナジュウハチ

ニホンジンがドリヨクしたからセンゴフッコウなのか、ガッシュウコクのドリヨクでセンゴフッコウなのかわからない。どちらもあったんだろうが。でも、センソウにかんする つみぶかさがあれば、それなりのやりかたをするだろう。ニホンジンがセンソウにカンする つみぶかさを ヒョウゲンしているのにはであったことない。あまり、そういう ゲンバを しらないからか。やっぱり、セイカツがアンテイしてくると、「イショクたつてエイジョクをしる。」というようにレイがダイジかもしれない。イレイもダイジだがほかにもダイジなことはある。センソウでのヒガイを ベンショウしたり。でも、そういうのはやはり コジンでやるべきなんだろう。センソウにカタンしたんだろうから。サンカしないことも できたはずだ。たしかにキョウセイセイは あったとおもう。でも キョヒすることはできた。おおきくくればだけど、ベツに くくらなくてもいい。コジンの シュウゴウがシャカイなんだから。いまみてもそういうあぶなさはあるとおもう。でも、センソウ、わたしにいわせれば「わるい」センソウだ。ヘイがにげられないんだから。そのハンセイをいかすなら、そういうキョクメンでもキョヒすることがダイジなんだろう。センゴクのと き みたいだったらしょうがないメンもあるが。

ナナジュウキユウ

コッキョウは グンのハイチとかんがえればいいかもしれない。だから、センカクショトウでもおしもどそうとするし、イラクでもカイフクしようとする。でも、ショウトツがおこったらどうか。おたがいギセイがでる。あいてがギセイをださせた というだろう。ただ、それがシュウダンだと、だれがわるいのかとなる。グンのセキニンシャがバイショウなどをするようか。それなら、ダンガンに うつひとのなまえをほっておけば、セキニンモンダイは わかりやすくなる。タンジュンにそのひとがバイショウしておわりとか。チョウヘイセイならむずかしいけど。ヘイにセキニン っていうのもいろいろいわれるだろうけど、シガンならジコセキニンみたいなもので、カンヨシャが きちんと バイショウすればそれでおわり。

ハチジュウ

エイキョウリョクのあるひとが、やすくていいものを たべていたら、まねとかして その やすくて いいショクリョウはタイリョウにショウヒされるかもしれない。だから、たべものを ショウカイするテレビばんぐみでは、ジュウヨウなショクリョウでなく、チュウカメン とかパン とかを シュザイするんだろうとおもってしまう。ヨウするに、チュウカメンとか パンはしなぎれしてもいいと、シュザイするひとはかんがえているが、タブン、やきニクは しなぎれしては まずいとおもっているのでは。そういえば、ナナジュウネンイジョウまえのセンソウは、ニホンジンが ギュウニクを たべはじめたからタイヘンだったという「すきやきセンソウ」ともいえるかもしれない。

カチクをきりくずすっていうのは ショミンにとってのセンソウである。さかなくってりゃいいのにとおもってしまう。そういうセンソウがおこってはたまらない。だからといって まったくニクをたべないのはむずかしい。でも、そういう、ううしいとか、うまいはモンダイだと。うしはノウギョウとか、うまはイドウにとかにやくにたつ。だから、「ぎょい(しい)」がいいか。

ハチジュウイチ

あるセイヒンが こわれたら、あたらしくにたようなものを かってしまうひとがいるが、こわれたらなおすべきだとおもう。ま、フクザツな セイヒンだとなおしづらいが、それなりに シュウリすることができる。すてないでシュウリをすることをすすめる。なぜなら、(モチロン シュウリにだせばそんなことはないが) シュウリによる ハッケンというか ギジュツがコウジョウする。サンダルをシュウリしたら、くつのようになったりとおもしろさがある。

サイキンは、ハードディスク(デンサンキの キロクヨウブヒン)をシュウリしようとおもったが、コウグがたかいのでやめた。そういうばあいもある。

ハチジュウニ

わかいころ、シツギョウシャみたいなフクソウがすきだった。シツギョウシャの フクソウといってもま、それをきているおとなはシツギョウチュウか、キュウカチュウといったかんじの。ま、そのケツカか、わたしもシツギョウをあじわった。それからカイゼンしたな・・・ハチジュウネンダイのサーフブーム(なみのりの リュウコウ)でそういうカッコウが イッテイのわりあいで フキュウしたときいた。たしかにシツギョウかもだが、フクに「え」がかかれていて、その「え」にこだわったり。キュウジュウネンダイにはいつてニホンでよくうられていた。レイネンダイも、いまもうっているのだろう。でも、シツギョウのケイケンをしてから、そういうのはきないようになった。もっといえば、やすみのないロウドウシャになったかもしれない。

ハチジュウサン

セイヨウの コテンオンガクのうたはすごいとおもう。イッカイだけ みにいったことがある。オンガクまつりのひとこま。きくと やっぱりよかった。わたしは ギターをひくが、ほかにナンジュウニンといるなかで ひけるかというとなんとも。ま、それはハチネンまえだが いまでもそのまつりはやっているだろうかな。むかし ちょっとガッシュウをやったことあるが、まあ いいやと。クライストさま どうこう とかカシにあるのに そんなきもちになれずちょっととまどいました。まあ、ふかいりしなくてよかったかな。

ハチジュウヨン

シィディのなかみをハードディスクにキロクして、シィディをあるテイドショブンした。でも、ハードディスクがふっとんだらそれでおわり。たしかにベンリだけど。オンガクヨウのデンサンキにハードディスクをつないでインターフェイス（チュウケイキ）からオーディオアンプ（オンリョウをあげるソウチ）にもって行って。

でも、いろんなキョクはきかなかった。イッカイだけランダム（でたらめなジュンバン）エンソウをしたけど。ま、ランダムエンソウはおもしろかったな。でも、コベツ、ブンサンのがやっぱりキョウドがある。だからシィディのままでいいんだとおもう。ケイタイデバイス（タンマツ）もあるけど、ファイル（キョクのジョウホウ）をアッシュク（ジョウホウリョウをおさえる）しなかつたのでケッコウヨウリョウをくう。ケイタイヨウでは、いれかえがメンドくさかったりで、ききたきやシィディつかっていた。ラジオをきけるブヒンをかってよくロクオンしてきいていたが、そのジカンにきけばいいんだともおもう。そういえば、このジュウネンで、カセット（テープ）デッキをみなくなった。デンキヤにもうっていない。ラジカセはあるけどそういうことじゃなくて。でもセイサンされているようだ。

ハチジュウゴ

キョネンのなつにシンブンをブンセキした。ブンセキはブンセキなんだけど、ショミンにセキニンがもてないようなヨウソがサンわりイジョウある。たとえば、「りんご」だったらセンエンもだせばいくつかかえるが、そうやってかえそうのない、ショウヒンとってはなんだが、がサンわり。そういうのにからんでいたらとおもう。ミンシュシュギはいいんだが、セキニンのない「ミンシュ」じゃタイヘンだ。そういうコウキュウなサンわりにはなるべくふれないようにしている。

ハチジュウロク

うたったうたをそのままフメンにというサギョウをやった。なれていないためにまちがえる。でもナナわりあっていたり。フラットナナドをつかうようなのではひどくまちがえた。あとになってシュウセイするけどまあ。キーボードをつかったホウがわたしはいいようだ。キカイ「ミュージックシーケンサー（オンプジョウホウをキロクするキカイ）」をドウニュウしたら、まあつぎつぎとできあがって、キョネンのなつからで、ナナコサクヒン、ゴコキョクシュウ、ニコカキョクシュウができました。このゴもカキョクシュウイッコヨテイで、まあ、ジュンチョウではあります。ただ、ちょっとサギョウづかれで、バカンスをとりたかったり。ま、イチネンでキョクシュウをナナコつくればまづまづでしょうな。やすんでもモンクいわれないきがする。

ハチジュウシチ

ちょっとヘンなくせが つきそうだったらガッキをひく。なぜかギターにおちついている。いえにはキーボードがあったけど、ヨウチエンのときに ガクフがよめずにザセツしている。ちょっとおおきくなってギターをひいているのをめにした。さらに バンドブームというのでさらにエレキギターをみた。スイソウガクとかで、トランペットやトロンボーンをやったが、いまいちだった。いまやればおもしろいんだとおもうが、そうこうしているうちに ギターにおちついた。でバンドやったり。

でも、ひくより、つくりたかったのか、キョクをつくっていた。でもカンセイできなかったり。やりはじめて ジュウニネンぐらいからにがてを なくそうとひきはじめて、まあ、サイキンでは よくシャープさせたりフラットさせたりとひいている。うまくなるのはすこしずつだろう。このナナネンでうたもつくれるようになった。

ハチジュウハチ

サイキンつくったキョクにかんして、ホントはジブンでひきたいんだけど（ギター、ベース、ドラム）なかなかジカンがとれなくてひけない。そのあいだにもつぎのキョクができるので、とりあえず、キカイエンソウでもとおもってキカイにうちこむ。

ふえをジュウネンまえにはじめて、やっぱりザセツしたんだけど、それにあうようなキョクがサイキンつくれるようになったので、ちょっとレンシュウしたいとおもう。なかなかロクオンするにはほどとおいのであるが。

ハチジュウキュウ

なぜかかねのありそうなカシュでも、プログラムされた（キカイでおとをならす）ドラムのおとをつかったり（わたしはドラマーがいなかったときに つかいました）、いまでもそれはつづいているようだ。いまは もっとシンポしていて プログラムされたうた がある。さすがに ユウメイなカシュはそういうのはつかわないでしょうが。

キュウジュウ

フクがやぶれたのでなおす。でもそれは「シンカ」か。なおったらまあ「イジ」なのかもしれないが、かんがえかたによっては「シンカ」とかんがえられる。ブヒンコウカンなら「シンカ」じゃないだろう。でも、つくるサイショのダンカイでジョウブになっているなら「シンカ」させなくてもすむかもしれない。でも、やはりレッカしていくんだらう。マルクスのキョウケン（●ロクジュウゴ）からいうとはやくなおせだ。なおせるとはか

ぎらないが なおしたホウがいいだろう。そのホウが ジョウブだろうしごみもでない。

キュウジュウイチ

このジュウネンで、フンイキのいいショクドウニケンがイテンというか テツタイした。コンビニ（エンスストア）のようにケイコウトウのあかりが ニンキなのだろうか。たしかにコンビニがそうであるようにメイロウカイケイフウではある。しかし、フンイキもダイジだとおもう。

キュウジュウニ

やきニクというのはいいセンタクシである。しかし、なにをたべたらいいか というのがベンキョウブソクであればつきものである。だったらと わたしはステーキをえらぶ。あかみだけのホウがいい。よくかんがえればそれが わたしをつくったといえなくない、ちいさいころたべにつれていって もらったからだ。たしかに、やきニクをたべにいき、ノウミソというセンタクシがあれば、ベンキョウもできるようになったかもしれない。だが、ザンネンながらそういうセンタクシをしなかったし、そんなものだとはしらなかつた。だからウンドウがよくできたというわけ。ガッシュウコクジンと たまけりやってもあたりまけはしなかつた。

ただ、こどもとたまけりして、ちよろちよろやられるとまけてしまうというケイケンがあるので、かならずしも、その、ジュウセンシャ、ホウシキをスイショウはできない。ジュウセンシャ でもキドウリョクがあれば、ちよろちよろにまけないだろうか。ニクをたべて、さらにはしりこみだろうか。

キュウジュウサン

からだをおおきくするというのでは、ハンバーガーというセンタクシもある。でも、ハンバーガーをたべてユウメイなセンシュとかつて いるんだらうか。はじめてたべたのがヨウチエンのとき、かみセイの テツドウレツシャの モケイがついてきていたくカンシンした。サイキンはそれが マンガのキャラクターのしなものにかわっているようだが。ゲンジツより ゲンソウということだろうか。あるおおてハンバーガーショップはブンカテキだとおもう。わたしはニホンのマンガセイヒンより、ガッシュウコクのレツシャモケイのホウがいい。でも、そのかたのレツシャはむかしのなので、いまま ジッサイのテツドウにてはしっているわけではないとおもう。そういえば、それからジュウゴネンくらいで、ガッシュウコクの にしカイガンのテーマパークでそののミニチュアレツシャにのった。トウキョウにある（これはちがうといえばチバにあるから ちがうのだが）ガッシュウコクでキカクされたテーマパークにもおなじようなものが あつたと

おもう。そっちのホウをさきにのったかもしれない。ガッシュウコクのテーマパークでは、その えだかシャシン (サンジュウメートル かけるジュウメートルくらいあったらろうか)、にえらくカンシンした。

キュウジュウヨン

そういえば、ショクドウのメニューである、おこさまランチのねだんにおどろく。ナイヨウも、わたしがたべたときとソンショクないようにおもうのだが。

キュウジュウゴ

あまりにいそがしいと、あるタイケンというのは、エクスペリエンスなんだとおもう。ペリエンス、ジカンテキなセイヤクをチョウエツしてしまうと。あえて、シィディをかわないでかりるといのもいいかもしれない。わたしは おとハだからシィディだが、エイゾウハは、ディブイディなんだろう。あえてもたずにというのが いそがしいときにはいいかもしれない。

キュウジュウロク

「テイコクシュギ」というとヒテイテキなカンがあるが、ショクにカンしていうと、どれだけのひとが「テイコクシュギ」ではないだろう。うちも「テイコクシュギ」テキだったし。ま、テイコクシュギもシサンということにしておくか。めずらしいリョウリをもとめたり。でも、ジュヨウがなければあたらしいリョウリをつくる リョウリニンはセイリツしないわけだから、ジュヨウがあるブンいいともおもう。

キュウジュウシチ

イミンだらけのくにをナニナニコクというのは むずかしいかもしれないが、ナニナニジンがいるバショをナニナニコク とかんがえるのはカンタンだろう。ただ、チガイホウケンはみとめないだろうから、「あ」コクで、とのカンレンで、おこった「い」コクジンのジケンは、「あ」コクと「い」コクのキョウドウサイバンでさばかれる というのはどうだろう。

そういうコクセキコッカロンもおもしろいかな。ま、ニホンはそのまま イミンをいれるのかな。しかし、イミンもニホンジンとなってしまうと なにかでチョウセイしなくてはならない。ブンカなどがちがうわけだし。それなら、すでにある セイジテキシゲンをつかってというのもいいのでは。

キュウジュウハチ

「シャザイガイコウ」がなぜモンダイか。センキュウヒャクヨンジュウネンごろのセンソウは、あまりいいセンソウではなかった。よく、「タイショウがうちとられて、ヘイがカイソウした。」といういきさについての キジユツがあるが、そういった、カイソウ（ヨウするに「にげる」だ）が しにくいセンソウだったからだ（●ナナジュウハチ）。ヘイは トウゼンキュウヨをしはらってもらいたいし、タイショウがうちとられたら、キュウヨがみばらいになるカノウセイがあるから、にげる。しかし、カイガイで、もしくは、カイジョウで、センソウしていると、知らないトチやうみだから にげにくい。だからよくないセンソウという。タブン、ホンドケッセンというのはヘイがにげるだろうから むずかしかったんだろうと おもう。センソウはセンソウで かちまけがあるわけだから、それはガイコウでどうにかすればよい。「シャザイ」すべきはヘイのホウにで、よくないセンソウをしたことについてあやまればいい。ベツに グンのナイキなどについてはガイコクにあやまることではない。あやまるあいてが ちがいますよと。

ただ、そういう、ゴカイの ゴカイが ガイコウに エイキョウをおよぼしているともおもう。ま、ヘイに あやまったのならガイコウすればともおもう。だれのかんがえはともかく「シャザイ」、ガイコウ、なんだから（「シャザイ」してガイコウすればよい）。そのカンテンからいうと、ガイコウがすすまないことがヨソウされるが それなりのたちばのひとがいわないと いけないだろう。

キュウジュウキュウ

なぜか ホウソウナイヨウがおかしいことがある。ガイコクジンへの シツモンで、エイゴではみたことないが、チュウゴウジンへの シツモンで ヒャクハチジュウドちがうジマクがついていたことがあった。あるひとにいわせれば「ジギャク」なんだろうが、それをするによってなにになるんだろう。わたしにいわせれば、あるくにの セイフにタイするホウシである。ま、それをしないことによって つぎのシツモンができなくなっては こまるのだろう。

ま、たしかに、ことばをシンヨウするか、フンイキをシンヨウするかというモンダイがあるが、ことばをセイカクにヤクしたホウがいいとおもう。「サクシャ キャクチュウ」とかできないのか。

ヒャク

セイサンヨジョウがあったから、ブンガクがうけいれられた。いまでは、みるブンガクがふえている。でも、マンガをよむのをジュウゴネンまえに やめてしまったので、アニ

メだ なんだといわれてもわからない。でも ガッシュウコクジンがつくるのはわかるような。そういえば、テイテンカンソクの カンテンからマンガザッシをかってみた。ナイヨウはともかく、やっぱり それなりにあたらしいいいかた、ゴクがつづいているようだ。エイゴケイだったり。そういうイミではジュウゴネンまえと そうかわりはないといえそうだが。ま、カタカナゴってというのは、「わく」がきまっていてその「わく」のソウリヨウをこえないテイドにいれかえをしているのだろうか。シンブンでも ふえたのはアイティ（ジョウホウツウシン）ゴだろうか。コスプレ、とかいわれても、なにのなんだかわからなかったりする。でも「セイサンヨジョウ」とかの コスプレはみたかったりする。

ヒャクイチ

サイキンのくつが どうもあしにあわない。まあ、たかいのはちがうのだろうが、かわがむけたりしてしまう。だから ジブンなりにカコウしてとかの サギヨウがヒツヨウになる。むかしのものはそんなことなかったのにと。まあ、くつはいいのをはいたほうがいいのだろう。くつだけじゃなくてデンキセイヒンもそうだ。やすいのをかうと ホシヨウぎれくらいにゴサドウがおこったり。そういうケイケンをすると、デンシカされた ジュウタクっていうのはおそろしい。なるべく、アナログにとおもってしまう。

ヒャクニ

ケッコウ、たかすぎもしないし、やすすぎもしないという チュウリュウテキなセイヒンってみつけづらい。むかしのニホンは、やすくていいものをつくっていたかもしれないが、やすいものがふえ、やすっぽいのが ふえてしまったとおもう。まあ、つかえればいいんだけどむずかしいモンダイがあったり。でも、デンキやでも、センタクのヨチがあるからいいとおもう。フクなんかがむずかしいかな。

ヒャクサン

「タイプライター」をかった。シンピンのものはみつからなかったので チュウコを。まるまるシャのがユウメイらしいが、エイコクセイもあった。それをうまくつかわないと、evil なんだか、といわれてしまう、いろいろなところで作られていたようだった。デンドウシキのもあったが、それなら デンサンキやワープロとかかわらないとおもい、キカイシキのものを。

とにかくカンドウした。すごいキカイだ。ま、エイブンでかこうとしているブンがあるので さがしてみたのだが。わりとこぢんまりとまとまっていて。カイギョウするときのすずのおとがいい。ワープロもそれなりに アイヨウシャがいるようだ。ま、デンチシキのワープロとかあればかってもいいとおもうけどそういうのはないみたい。インサツキノウがない コガタのものはつくられていたが。

ヒャクヨン

チツジョと ブンカどっちがダイジだ。サンわりのブンカとナナわりのチツジョでどうだろう。それくらいだと チョウド キンムビとキュウジツテイドのわりあい。でもキュウジツを ブンカにつかっているってあまりきかないけど。やくわりで わけてしまうとサンわりのブンカジンになるんだらうか。でも、ヒセイサンジンコウもだから、ニホンでいうとサンゼンロッパクマンニン。これだけのかずだと、ブンカジンっていってもちよつとわからない。かくれたブンカジンがケッコウいるとか。ただ、あまりにブンカテキな、シャレた、キカイとかがふえちゃ こまるとおもってしまう。

サンわりがた エラーじゃ イライラするかな。そうだ、キカイにもキュウジツをあたえればだ。ちょっと チツジョをふやさないとイライラするかな。ま、ブンカテキなセイヒンをえらばなきやいいのか。ま、ひとでも、チツジョのあるブブンとブンカテキなブブンというように なんわりとかの わりあいでなくみるのが ありそうではないだらうか。

ヒャクゴ

ジョウホウがおかしいほうが、ものがおかしくなるよりいい。でも、デンサンキ、なんて、デンキとジョウホウでうごくというと、ニンゲンの シンシンのレンカンににているかも。でも、おかしいのは ジョウホウだと。ものがおかしいならコウカンしてになってしまう。ジョウホウで うごくブンをすくなくすれば、ものとしてはまともになるかもしれない。だから、セイヨウがダイジだったり。

ま、ニホンジンのショク、たべること、なんて、むかしからそんなにかわらなかつたんだらうが、メイジにはいってちょっとかわり、いまもかわりつづけているんだらう。つまり、ニンゲンをコウセイするのに、むかしとちがうブヒンをつかいはじめたということ。だから、ニジュッセイキのセンソウは「すきやき」トウソウだったんだらうっておもう。でも、たしかに そういうギョウニクをきりくずしたりしているから ニホンジンはタイカクがよくなったんだらう。いつまできりくずしつづけるのか わからないが、まあ、そういうジダイだ。センソウじゃないんだけど、きりくずしつづけるって。ヨーロッパでは、キンダイまえからのながいセンソウでうしをきりくずしたんだらう（●ハチジュウ）。それをヘイジに まねしなくてもいいのとおもう。それで、ノウギョウにキカイうし とかをつかってるんじゃネンリョウダイもかかるだらうな。そこにキンダイノウギョウの よわさがある。

でも、いまシジョウにでまわっている、ギユウニクは、ガッシュウコクセイがおおい。つまり、えらんだりしなければ、ガッシュウコクのセイブンをセッシュすることになる。だから、いってみると、ギユウニクをたべるとガッシュウコクジンにちかづくことになる。そういうわけだから、ガッシュウコクぎらいなら、ギユウニクをたべるべきではない（ニホンのデントウシュをデントウヨウチクされたギユウニクもあるだろうが）。それは、ケンカになるからだ（ロクジュウサン）。サイアクあなたの中からだがセンジョウになる。もっというと、あなたがベイチュウタイリツをしんじるなら、そのどちらでそだてられたニクやノウサンブツをたべるべきではない。それか、どちらかシジするほうのニクやノウサクモツをたべればよい。どうせケンカになるのだから。そういう「ジミントウタイシツ（●ロクジュウサン）」をつくってきたのがセンゴナナジュウネンだ。そのジミントウタイシツをやめられるかといったらなかなかむずかしい。ま、さかなとこめくってりゃなんだけど、ニクをたべてしまったり。だから、ジミントウがタイショウする。でも、シュギテキにドクリツをめぎすのなら つよいシンネンで、ガッシュウコクセイのセイブンをたべなきゃいい。サイキンは、チュウゴクセイもふえたからきをつけないと、ジーツーロン（ガッシュウコクと チュウゴクのツゴウでコクサイシャカイがシンコウするというシュチョウ）がテンカイしたら、からだのなかにカットウをためこむことになる。だから、イシキテキに、ホントウにキケンかどうかはともかく、セイジシュギテキにチュウゴクセイヒンをたたく。それがよくいるニホンジンだろう。なぜならジミンシュギを、すくなくとも、やめたくないから。だから、ダイブツシュギテキなひとがチュウゴクセイのノウサンブツをたべるのはモンダイないが、むずかしいおおきなワゴウをからだのなかにかかえこむことになる。でも それはむずかしいカダイだから、わたしはセイヒンをセンタクしようと おもっている。

ヒャクロク

すくなくとも「ジミントウタイシツ（●ロクジュウサン、ヒャクゴ）」でおさえない。なにしろこどものころに、ユウメイハンバーガーテンでハンバーガーをかってたべた。それからちょっとあったが、そういうセンタクをしたのだ。しかたない。でも、ユウメイハンバーガーテンがうりあげをへらしているときくと、チュウゴクセイのザイリョウをつかっていたのが きいてるとおもえる。やっぱりすくなくとも「ジミントウタイシツ」にあわせないと。

ま、ジキュウリツを あげられるようにとがんばれたらいい。なぜなら、ジキュウリツレイはニホンジンのおわりだからだ。たしかに、コクセキなどのジョウホウはのこる。しかし、ニホンジンっぽいセイブンがないとなると ニホンジンの・・・である。いまのところ、ジミントウがキンコウテンなんだろう。そのリョウタンもある。ドクリツ、キョウウチョウと。でも、ゲンジテンでジキュウリツ ヨンジュッパーセントだから むかしとくらべてニホンジンのかずが ロクわりへっていることになる。まあ、ジンコウがふえすぎたのかもしれないが。

ヒャクシチ

キョネンのコウハンぐらいから、キョクをつくった。ことしのコウハンにイッコカキョクシュウがしあがり、それからニコメのカキョクシュウができる。ほかにもカンガクシュウをつくっていたので、ことしにはいって、キョネンからイチネンでナナサクのキョクシュウをつくったことになる。

で、いまもカキョクシュウイッコはシンコウチュウだし、もうイッコのキョクシュウもシンコウチュウだ。それで、ちょっとはたらきすぎているとおもう。イチニチイッキョクつくったらイチネンでサンジュッキョクシュウができる。でも、そんなはなしきいたことがない。だから、ちょっとゆっくりとおもっている。モーツァルトだってそこまでやらなかっただろう。ま、きめこまかさがダンゼンにちがうが。せめて、イチネンでジュッキョクシュウまでつくるのをおさえたいとおもう。はたらきすぎだからだ。ま、なつばはうみなり プールなりにいきたい。

ヒャクハチ

おやじがよくあじ（さかな）をたたきにしていた。なぜそうするのは やってみればわかると。そういうのがケッコウあるかな。

ヒャクキュウ

シャシンをとるときに、なんかいったりすることがある。「チーズ」なんていわれてもおいしそうなかおすればいいのかと。でもサイキンになって、ポーズ（ふたつのドウオンゴがあり、どちらかはわからないが）といていたのが、シャレというか、テキになって、そういうようになったと。

「バタバタ」するとか「ドキドキ」するっていうのもよみといてみると おもしろい。ゼンシャは、おいしいコケイタイのショクヒンと、センソウでつかわれるもので、コウシャは、エイゴの なまりだとおもう。「なつバテ」というのもなつのホウゲキ（タイホウをうつ）ってことでしょ。だから「しちやった」だったら、「あついのにゴクロウさん」だ。「バター」か「タイホウ」かってなんのことかとおもっていたら、「バター（ビーユーティティイーアール）」か「バッテリー（ビーエーティティイーアールワイ）」かというダジャレだった。ま、ギロンはあったのでしょ。そこから、「バタバタ」するになったのでしょ。

ヒャクジュウ

ぎょうぎも やはりショカツショウグン (●ロクジュウヨン) のセイヒンなのか。ショカツショウグンのシッパイは、ジブンができないことをほかのショウグンに シンゲンしたことである。ショカツショウグンがまもっても だめだったんだらう。だから ガイコウにかけた。でもマンジュウが できたんだから、ショカツショウグンはすごい。

ヒャクジュウニ

ガッコウのセンセイの 知っていることがよくわからなかったことがあった。それは ラテングとか フランスゴとかをつかっていたから。たとえば、「バタバタする (●ヒャクキュウ)」みたいなはなしだ。それについてチシキがあれば リカイできたが、まあ、トウジはそういうソヨウがなかったので リカイできなかった。でも、ジッサイにそのようにやってみたからわかったのかもしれない。なぜか「おお、シュよ」とかうたわされそうになった。そのゴは ジブンがつくったキョクをうたったりしました。そういうケイケンがあったからリカイできることってあるようだ。

ヒャクジュウサン

フロイド (セイシンブンセキのソ) センセイのハツメイヒンは、つかいかたをふくめ ふたつある。ひとつはねいすで ゆったり。ガッシュウコクで いわれていたと おもうがねいすにころがってカシをつまむと。もうひとつが、おとなのおもちゃである。まあ、フロイドセンセイがテイショウしたような なまえはついていないとおもうが。

ヒャクジュウヨン

あるシリョウを シャカイガクテキにブンセキしていたら、ひとつのことにきづいた。それは、いまはみえないようだが、ニホンには、でじまがコウゾウテキに イジされているということ。そのでじまを ブンセキするとまあ あたらしめの なにかがうごいていると。そんなにたかいものばかりがおおいわけでないから まあ とりひきは しやすいんだらうと。そのコウゾウはイジされつづけているが、コジンにもフキュウしているカノウセイがある。どちらがホンドかわからなくなるってことは なにかないと ないだらうけどそういうカノウセイはある。

ヒャクジュウゴ

きのうに てがみを おくることをかんがえたり、あしたなら ジョウケンシダイでタッセイカノウだ。だが、きのうのジブンがないからとどかないだらうとか。ジカンっていうのはウンドウリョクなんだとおもう。だからイチ「ロコモーター」ではかれると。そういうのはむかしからで チキュウのカイテンではかっている。そこまでおおきなウン

ドウだと なかなか イチニチすすめるのは タイヘンだがまあ、イチニチたつだろう。ま、ひかりなんかでおなじょうにかんがえている。

てがみはむずかしいが、デンシジョウホウならおくれそうだ。ジョウホウ、デンキはチキウウのウンドウよりはやい。しかしどこにおくるかとおもう。きのうにおくっても、あしたにおくっても、ジュシンソウチがなければうけとれない。

ジカンっていうのがウンドウだとすると、カンゼンにセイシしている なにかではジカンがすすまない。しかし、ザンネンながらそういうなにかは みつけにくいだろう。ウチュウだったら なにかにひきつけられたり。うごかないっていうのがフカノウだから、ニンゲンはやがてしぬと。

ヒャクジュウロク

ウチュウのレキシを カセットテープがサイセイするとしたら、「オートリバース」にしたらウチュウはおわらない。シィディだとちょっとまがあく。ただ、カセットテープのばあい、ギャクむきにカイテンさせないといけない。エンドレステープがもっともよいかもしれない。

ヒャクジュウシチ

ゲンダイシャカイの モンダイはノウギョウセイサンを タンジカンで おわらせてジカンができたということだ。そのヨカというかを どうすごすか。ホンはむかしからあるが、それをよんでヨカをすごすではなくて コウギョウセイサンしようとか。コウギョウセイサンすれば ゲンダイと にたようなセイカツなんだろう。いまは、コウギョウチュウシンなんだろうか。だから、サンギョウカクメイって。でもコウギョウセイヒンはたべられないわけだから。コウギョウセイヒンを あまりかわなければむかしっぽいセイカツができるんだろう。

ヒャクジュウハチ

「モーターゼーション (ジドウシャシャカイ カ)」。くるまがあればいろいろなものがかいにいける。だからくるまをかう。でも、そういうみせにいてみても、ほしいものはかえなかったりする。じゃ くるまはヒツヨウかとなる。セイカツがかかっているようなひとがくるまをつかう でいいのでは。アンガイかえないものはおおい。だからエンボウからおくってもらう。「モーターゼーション」より「デリバライゼーション (ウンソウシャカイ カ)」だ。くるまより デンサンキにかねかけたホウがいいとおもう。

ヒャクジュウキュウ

「ジョウホウ」は、まずしいもののカクバクダンかもしれない。しかし、どうも それをユウコウにつかうのはヨユウがあるひとなのではないか。チュウリュウカイキュウのひとがカクバクダンをつかうんじゃ さきは くらいといえなくないだろう。いやならジョウホウをみなきゃいいんだ。そういうわけで すぐにくみたてられないくみたてシキ テレビをつかっている。

ヒャクニジュウ

サイキン、コウゾウシュギテキというかになってきた。わかいころは、ゲンバのコウドウをみてかんがえるとかだったが、いまはコウゾウシュギテキだったりする。そのシテキする「コウゾウ」がまとをえていなくても、すくなくともわたしの「シンリコウゾウ」にはある。だからこそ、ゲンバのひとこととしてはいいんだけど、コウゾウにひびきそうな ことばはさけたりする。トクになにもないがいいとおもう。もっと言うと、しらぬがほとけである。

ヒャクニジュウニ

シャカイガクをしたりする。サイキンは、いわゆる、フィールドワーク（ゲンチチョウサ）、などしないデータガタをやったりする。それって ガイテキイッパンカ（ほかでもあてはまるか）は という といがでるが、ベツに シュミでやるブンにはそんなおおきいギロンでなくてもよかったり。

そのシャカイガク、わたしは シツカンへのチョウセンだとおもう。だからいわゆる ひとばかりとはいかない。コジンテキな イケンですが。シンブンをブンセキしてみると、コジンではかえないような「おおももの」、たとえば、コクサイカイギだったりサンわりイジョウ ソンザイしているようだ。だから、そういう「おおももの」にチョウセンするのは かねのつかえるシャカイガクシャでいい。なんらかのヘンカに セキニンをもてるのかともなるから。そういうシャカイガクは、ソウトウかねをもっているひととかしかできない。

かねがなくてもできるのは、そんなにかねが かかりそうにないタイショウのケンキュウとか。ケッキョクちいさなケンキュウになってしまうが まあ しかたがない。そういうイミでもコウゾウシュギテキになるっていうのはただしいかな。

ヒャクニジュウサン

リュウコウ（はやり）というのは、いってみればいろんなフクをきるということだ。でも、ダイタイ のぞましさとかが あるからおとなになると そういうのを きないだろうとおもう。ベツにモンダイがなければ どんなフクをきようとなんだが。おとなになる

ほどみえるリュウコウ、セツメイカノウな、がもてはやされるかも。でも、センソウがあったから、それイコウのセダイについていえることかも。

ヒャクニジュウヨン

「ブンメイカイカ」っていうのもシャカイガクだったかもしれない。「イチオクソウチュウリュウ」とおなじで、イッセイにショウヒをはじめたり。ニホンのキンダイシャカイガクではイチバンのできかもしれない「ブンメイカイカ」は。で、どこかに「ブンメイ」ソウみたいなのがあるわけかな。くきがなければはなはさかない。「カイカ」のジがちがうかもですね。

ヒャクニジュウロク

いまおもうと、ガッコウっていうのは、まなぶ「なかみ」がダイジなのでなくて、まなぶ「シセイ」をタンレンする ばなのだとおもう。ホントウにまなびたいことはそれぞれちがうわけでそういうのを イッコイッコやってられない。ただ、まなぶ「シセイ」をタンレンしておけば、ジブンでまなぶことができるということだろう。

ただ、「なかみ」をジウシしてしまうと、あとでわすれたりするてまがかかるようになる。いらぬチシキだったりするからだ。だから、ホントウにヒツヨウそうな、イッカモクだけ、たとえばコクゴとか、まなぶとかでいいんだろうとおもう。

ヒャクニジュウシチ

なぜ、かみをちやいろくするのか。タブンそれは、「ジウ」のあかし、もしくは、「ジウシュギシャ」のあかしで、それがニジュウネン、サンジュウネンつづいている。ヘンないかたをすれば「ボウメイ」みたいなもので、いまでもイッテイスイ「ボウメイシャ」なり「ジウシュギシャ」がソンザイする。みてわかるからいいが、サイキンのわかものはそういう トウショの ころざしみみたいなのをわかっているかギモンだ。なんとなく「ボウメイ」してしまうのだろうか。トウショはガッコウでキョウシたちとたたかいながら タッセイしたみなりである。

ヒャクニジュウハチ

センシンコクビョウ（●サン）とはセンシンコクにおける、トウルイ（さとうなど）のケツボウである。どうしてもみなみにむきがちだ（トウルイがとれるから）。さらに、ネンリョウももとめたりする。そういうシゲンをめぐる あらそったり。うまくセツヤクしながらやればいいが。

ヒャクニジュウキュウ

ニクのセンドをたもつためにレイボウしたり。トシにはレイゾウコが タクサンあるとおもわれる。ニクのセンドをたもつために レイボウしているのだ。あなたもレイゾウコにはいっていないか。

ヒャクサンジュウ

ニホンジンとブッキョウのかかわりはながい。センヨンヒャクネンほどまえ、ショウトクタイシが、ダイブツをコンリュウしたといわれる。まあ、ヘイワにキヨしたんだらう。そうでなければ あちこちにつくるようでもない。ただ、「ブシ」がよくなると、ドウランとなったり。ヘイアンコウキからそうだ。ただ、トクガワシによってまあ ドウランはおちつくこととなった。そのマッキから、シュウキョウウンドウがおこったとされる。ただ、ダイブツをつくるでなく、くさのねテキにシンコウしたんだらう。そのときは、また「ブシ」というか「グンジン」だ、がよくなるときでもあった。しかし、そのとき、グンジンよりシュウキョウカがよくなることはなかった。グンジンセイジにより、ショウワでは、センソウにハイボクするようなケツカとなった。また「ブシ」セイジがはじまりそうなら、シュウキョウカがカッパツになるか。「テキ」がつくりだすものは「テキ」である。

ヒャクサンジュウイチ

「ことば」がおよぶハンイがひろいほど やすみがすくない。コウリュウがふえればやすみがすくなくなると。だから、ことばのだしすぎをひかえたりする。「クンシのまじわり・・・」ってやつである。どうも、サイキンのセイジにたずさわるものは、コクナイソウセイサンがおおきいホウがよいとおもっているらしい。コクナイソウセイサンがおおきいということは、やすみがすくない ということである。キュウジツをふやしつ、やすみをへらせとはいかがなものか。こたえは、ニジュウヨジカンエイギョウなのかもしれない。

ヒャクサンジュウニ

「シャカイ ナイガンカ (なかまいりさせるみたいなかんじ)」より「ダツブンセツ (ブンルイしない)」のホウがいいかもしれない。まあ、「カガク」はやめられないんだらうからむずかしいが。ただ、それは、ココのカンシンにオウじてやればと。まあ、「しづかな」カガクといったところか。カガクシンコウっていうのもむずかしいんだけど。きづいたら「ポリティカリー コレクト (ただしいいまわしをするウンドウ)」みたいなこ

といってる。

ヒャクサンジュウサン

ベッドのうえに ニクをおいたらなんかリョウリみたい。それを また ベッドをつかってはさむのが、エイコクのキゾクリュウ。ただ、おおきなベッドだと、ニクのリョウがすくなくかんじてしまう。だからベッドにヤサイをおいたり。でもニクがよけりや どうするか。ベッドをハンブンにおってとか。そういうひとがおおいから、ベッドがちいさくになってしまうのだろうか。

ヒャクサンジュウヨン

「ベンキョウ」するとかいうけど、そういうベンキョウって、「しんだもの」についてのケンキュウっぽい。たしかに「しんだもの」のケンキュウもダイジなのだが、それでは、「いきている」ときが どうかのかわからない。ひょっとすると、「あれはああなんだ」とセツメイするとき、もう、それは「しんでいる」のかもしれない。だからギロンがフモウになったり。いきているように あつかったホウがたのしいかもと。ドウブツエンをみるような。

ヒャクサンジュウロク

にわにちょっと かわったはっぱがはえてきたことがあった。たべられそうなのでたべてみたらおいしかった。だが、ザンネンながら、つぎのひには、ザッソウとおもわれカジンにショブンされていた。

ヒャクサンジュウハチ

サイキンは、かんがえたりするブブンを、「あたらしいノウ」、ドウブツテキなブブンを、「ふるいノウ」といっている。よのなかには、「サノウ」と「ウノウ」といういいかたがあるようだがまあ、そうよんでいる。あまり、「あたらしいノウ」がカッパツだと、ねれなかったりする。そういうときは、「ふるいノウ」をカッセイカさせるようにこころみたり。

ヒャクヨンジュウ

そういえば、わたしはショウギがすきで、いつか、「ニンゲンショウギ」をみにいきたいとおもっている。ことし、カイジョウをしらべてデンシャのジカンもしらべたが、どう

も、とまりじゃなきやむずかしそうだった。ことしはだが、またコンドと。

ヒャクヨンジュウニ

ケッコウ、さきのような（「バタバタ」などである [●ヒャクキュウ]）ゲンゴケンキュウが すきで、きのうもイッコみつけた。それは、あまりいいことばでないのだが、「バカ」ということばである。なぜか、うまとしかとかかれたりする。まあ、かならずしもだが、タブンそうだとおもう。このことばは、ラテンゴからのハセイで、フランスゴやエイゴにもこのっている。つまり「から」っぽ、だ。おまえは、「からっぽ」か、と、タブン、シンポジンがいだしたんだらう。そこに、そうです、とかこたえたらなんとつづけたらいいか。わたしはイッシュウカンのキュウカチュウです、とか。

ケッコウ シンブンをみても、ガイコクゴをつかったりしている。サッコンではなかなかジュンニホンゴを はなすかたにはおめにかかれぬともおもう。ガイコクゴなどをつかうのは、メイジキにイッパンカしたんだとおもうが、「バカ」も そういうジキにニホンにはいつてきて、ジをあてたんだらう。

ヒャクヨンジュウサン

「デモ」はタンシユクゴだ。どうも、デモクラシー（ヘイミンシユギ）といういいかたのようだが、いまつかわれる「デモ」は、デモンストレーション（ジツエンコウドウ）、のようだ。これもジをあててしまえば、でどころを かくせてしまうレイかもしれない。

ヒャクヨンジュウヨン

「やきいも」をサイキンたべていない。はっぱをあつめてってというのは、ケッコウゼイタクだ。かねがかるかはベツとして、いしやきなんだらうか。そういえば、やきとうもろこしもおいしい。サイキンやたいをみないような。

ヒャクヨンジュウロク

わたしがすきなのが、クリームシチューをごはんにのせてたべるもの。ミートソースをごはんの うえにかけても やはりゴチソウ。ニホンでは シュシヨクが ごはんだからそういうたべかたでいいんだとおもう。カルボハン、カルボナーラ ごはんとか。

ヒャクヨンジュウシチ

やっぱり ジュウってダイジだとおもう。シッパイすることは あるけど、シッパイをくりかえしたくないだろうし。laissez faire (ジュウホウニン [●ヨンジュウサン]) でいいんだと。なにかをえらばせることもできるが、やっぱり すきなものが すきだったりするわけで。ジブンでなにができて なにができないかが わかるだろうし。ジブンのしごとみつかるところだろう。ただ ながしているとジカンをうしなったりする、わたしがそうだった。でも それもガクシュウだし。

ヒャクヨンジュウハチ

ニホンジンはメイジイコウ、オウベイブンカをとりいれた。わたしは そういうブンを「キンダイ」というが、ニホンの、ニホンジンの、コウゾウになってきているのだろう。なかなか「キンダイ」をつかっていないひとには であえなかつたり、ヨウフクをきいていないひとめずらしい。ちょっと「キンダイ」のブンをケンキュウしたことがあるが、どうも うりあげがコウチョウそうなものばかりだったような気がする。だからこそ、「キンダイ」かぶれしたひとがおおくなってしまう。ショウジキ、わたしなんかは、ワフクをきられてもちゃんとたんでしまえるジシンはないし、ケッコウ、キンダイかぶれだったりする。でも、サイキン「キンダイ」でなく、ガイコクゴとしてとらえるくせがついてきた。さっきの「バカ」のはなし (●ヒャクヨンジュウニ) しかり。タイリクブンカとオウベイブンカ どっちが タイセツだといわれても、いいものがないというかんじだし。ただ「キンダイ」には うれすじのセイヒンがよくあるといえそうだ。やっぱりこのジュウネン、ニジュウネンでも「キンダイ」のセイヒンがうりあげをのぼしているのではないだろうか。

ヒャクヨンジュウキユウ

ヒャクネンまえぐらいは、「レンガづくり」のたてものでシッパイして、ヨネンまえぐらいは「ゲンパツ」でシッパイしたのではないだろうか。たしかにいいセイヒンなのだろうが、ジシンにはよわい。また、「シッパイ」したセイヒンをうごかしそうだが。

ヒャクゴジュウ

そういえば、ことしはガスがとんでいるのをみていない。ショウリョウはとんでいるのだろうが、シニンできるくらいのノウドで とんでいるのは みてないな。となりのくにからとんでくるらしいが、カイゼンされたんだらうか。

ヒャクゴジュウイチ

なぜ ウチュウがひろがるか。タブンウチュウのなかでのダンスが はげしすぎて、ウチュウのそとにもエイキョウをおよぼし、おどることを、ヨウセイしてしまうのだろう。だから「ダンスする」ウチュウはひろがっていくと。チキュウジョウでも、「ジンセイ というダンス」がくりひろげられている。

ヒャクゴジュウニ

なぜか ニホンではオンライン（ジョウホウツウシンモウ）ジョウのデンシブンシヨのまとまりを「ホームページ」といったりする。ジツはそういうことばにまで コウコクが かんざんでいて、そうよばせるのかとうたがってしまう。スポーツで リヨウするスタジアムにキギョウメイをつけたり というのはジュウネンくらいまえからある。そのセツでいくと、トクにどのキギョウがつくるかは とわれないが「ホーム（いえ）」というのを コウバイしてもらいたいためにそういういいかたになるんだろう。あまり、きにしないことばだが、じつは、「ホーム」の Koubai にキョウしていたか。

ヒャクゴジュウサン

マルクスはシホンカによる「サクシュ」があるといったらしい。その「サクシュ」をふせぐためにレンタイするのは、タブン ソレンのがんばりからもたしかなんだろう。しかし、ロウドウシャがすぐにでもシホンカに になれるかといったらむずかしい。それはそういう、かねをウンヨウするドリョク とかについて シホンカのホウがはやくとりくみはじめたからだ。だから、シホンカがロウドウシャになるのもむずかしい。それは、ロウドウするドリョクはすでにロウドウしている ロウドウシャのホウがはやくとりくんでいるからだ。ケツキョク、マルクスとそのエイキョウがあったひとたちは なにをしめしたかという、「はやくドリョクしたひと」が ほかのそうでないひとよりもユウリである。ということではないだろうか（●ロクジュウゴ、キュウジュウ）。わたしはそれを マルクスのキョウクンとよんでいる。

ヒャクゴジュウヨン

テレビゲームキと ビーだまどちらがいいか。わたしは ビーだまから テレビゲームにすすんだ。でもいまなら ビーだまだろうか。なんで、ゲームキにむちゅうになっていたか。はじめて あるテレビゲームキをみたとき、おもしろそうとおもった。なにか かつ

こいいはこだったから。おもしろいシンセイヒンというかんじだったろうか。それまでのひとつのゲームだけができるゲームキはあるテイドつかうとあきてしまうのだろう。しかし、そのゲームキはクフウがなされていた。それはカートリッジをとりかえるとベツのソウサあそびができてしまう。だからカートリッジをとりかえているうちはあきなかった。そうやってニジュッサイくらいまでやっただろうか。でも、それは、ソウサあそびにすぎないから、おもいでイガイなものこらない。キカイとカートリッジものこるが。いまなんか、ビーだまをやったときのホウがおもしろかったとおもう。ただ、ショウギゲームにはキョウミがあるが。でも、そのゲームキのおかげで、レキシにキョウミをもった。

ヒャクゴジュウゴ

なぜ、ニホンジンはエイゴができないといわれるのか、ふたつおもいついたことがある。ひとつは、ガッコウで「アイプレイ ギター」とかいいカゲンなエイゴをいうようにうながされること。「アイプレイ ギター」ならまだいいが、「アイプレイ ギター トゥデイ」だったら、ホントかよってなる。「おまえ ギターもってなかったよな」って。そういううそつきエイゴばかりやっているものだからいやになっちゃう。わたしもギターをひくようになりましたよ、ならさせられた、かもしれない。ただ「ウエル」かどうかはわかりませんが。でもまだ、テニスはやっていません（●ニジュウニ、ロクジュウニ）。やろうとおもっていますけど。うそつきになっちゃうからね。

もうひとつが、よむことをジュウシすること。どういうことかという、ジブンのいいことをワエイジテンでしらべていうのではなく、エイワジテンばかりをリョウすることをすすめられるということ。たしかに、よむのにかずをこなしていけば、しらべたタンゴをうまくつかっていうことができるのだけど、そのドリヨクはジュウネンとかかかる。それによまされるホンがジブンのカンシンにあっているととかぎらない。でも、うまくつづけると、よむのはできるようになりますね。リョウをこなすっていうのが、ニホンジンのゴガクシュウトクホウなんでしょう。わたしもシンブンよむのにジュウネンくらいエイワジテンをひきまくりましたよ。まあ、いいエイゴのジュギョウとは、「わたしはユウシュウなロウドウシャになります」とかエイゴでいわせることかもしれない。

ヒャクゴジュウロク

「ショウヒシャ」ということばがあるが、「ロウドウシャ」とか「シツギョウシャ」のしたに「ショウヒドレイ」カイキュウがあるようにおもう。わかりやすいレイでいえばアルチュウとか。さけのショウヒをやめられず、また、ドをこしてさけをかってシャッキンつくるとか。ほかのものでもそうだ。そういう「ショウヒドレイ」カイキュウにはならないようにしたい。シツギョウシャはさらにシツギョウしないが、そういうカイキュウにおちるかもしれない。

ヒャクゴジュウハチ

むかしナナジュウネンくらいまえだれかが「カーテン」とかいいだしたのかそういうことばがのこっている。「てつのカーテン」と。しかし、タブンいわれたホウもきがきいて、「カーテン」だったら「かべ」をつくりましようとしてジツサイにつくってしまった。「ベルリンのかべ」だ。「かべ」とは、「ウォール」ですね。それでめでたしめでたしとはならなかったが、そのうち「カーテン」っていわなくなったのか、いわせなくなったのかで、「かべ」をとりはずすようになった。まあ、その「カーテン」も その「かべ」ももしくはそれらのくみあわせがあまりいいセイヒンとはおもえなかったのかな。

ヒャクゴジュウキュウ

センゴ、ニホンジン「ジミントウタイシツ（●ロクジュウサン、ヒャクゴ、ヒャクロク）」になっていった。パンシヨクしかり、ギユウニクしかり、オレンジしかり。これらのシヨクリョウは ベイコクサンだから、ヨウするにニホンジンのからだが、ベイコクサンであるテイドコウセイされるようになったということ。それを「ジミントウタイシツ」という。だから、ソレンががんばっていたレイセンキ、ソレンセイのノウサクモツをたべていたら、ガッシュウコクセイのセイブンとカットウをおこしただろうし、チュウゴクが がんばっているとき、チュウゴクセイをたべれば、やっぱりガッシュウコクセイのセイブンと カットウをおこす。いまはセンタクシがあるから、ニホンセイをたべるのもよいし、ガイコクセイをたべることもできる。しかし、ながねんジミントウタイシツでやってきたことを わすれてはいけない。イジならガッシュウコクセイだ。カットウがありそうのうちはそのチイキでつくられたたべものは ひかえたほうがよいとおもう。

ヒャクロクジュウ

なんかのやくについているひとを、「サービスマン」でなくて、「サービス パーソン」というかんがえかたがある。「マン」だと おとこだから おんなにそうよぶのはということで「パーソン」にするようだ。しかし、それにもモンダイがある。「パーソン」の「ソン」はむすこだからむすめがふくまれないのではないかと。で、「パーパーソン」といってもずっとモンダイがつづく。だから、「パーチャイルド」ならいいんじゃないかと。でも、「チャイルド」じゃない。しりません、わたしは。

ヒャクロクジュウイチ

しゃべるはやさがはやいホウがしごとがはかどっているといえないか。セツメイなんかも、しゃべるはやさがニバイなら、ニブンのイチのジカンですみ、ほかのしごとができる。ながいといわれるカイギもサンバイのはやきのしゃべりなら、サンブンのイチのジカンでおわる。それなのになぜ ガッコウに、ニバイソクコースとかサンバイソクコースがないか。おしえられるひとがないのかもしれない。

ヒャクロクジュウニ

「われ おもうゆえにわれあり。」というひとが いたらしいが、わたしは「われ あるくゆえにわれあり」とおもう。ニンゲン、あるかなかったらあたらしいハッケンはない。ホンをよんだり、デンブんに ふれたりするのもおおきなイミでの「あるく」だ。あたらしいハッケンがないとシコウはほとんどおなじことのくりかえしだろう。だから、シコウをすすめたきやあるきなさいとなる。「あたらしいハッケン」をすればかんがえるから、デカルトフウに、われあり、となる。

ヒャクロクジュウサン

「ジュウリョク」というのはそもそもないのだとおもう。じゃあ なぜ りんごが きからおちるんだという。それは カイテンの チュウシンに むかうちから だとセツメイする。チキウが ジテンしている カイテンジクのチュウシンにむけてうごいた といえるだろう。それをわたしは「うずまきリョク」という。しおのうず（うみの）のヨウリョウだ。そうすると、なぜチキウや カセイなどのワクセイが タイヨウのまわりを まわるかセツメイでできる。つまり うずをまいている ということだ。でも それじゃワクセイは タイヨウのホウに イドウして ぶつかるじゃないかというかもしれない。しかし、タイヨウは エネルギーというかひかりをはなっている。そのひかりのちから、おもさというか、でキョリをたもてる。だから、タイヨウがエネルギーをハッしなくなったら、それを「ブラックホール」というかもしれないが、チキウをはじめ、タイヨウケイのワクセイは、シダイにヘンカしたタイヨウに ちかづきショウトツしてしまうだろう。つまり、「りんご」もチキウの ジテンにヒツテキするちからがくわればおちない。ただ、それがないだけだ。だから、チキウのジテンがなくなれば、ひとはチュウにうくようになるだろう。でも、ニュートンのジダイには、テンドウセツがまだはばをきかせていて そういうことをいづらかったのだとおもう。だから、ダキョウとしての、「ジュウリョク」だったのではないだろうか。もっとも わたしはニュートンについてくわしくないので、ジカンがあったら しらべようとおもうが、ニュートンがどうかんがえたかは セイカクにはわからない。

でも、こうかんがえるようになって、なぜ ワクセイが カイテンするのかというなぞがとけた。「かみ」の なせるわざだとかかんがえなくてすむようになった。

ヒャクロクジュウヨン

「あるくゆえにかんがえる (●ヒャクロクジュウニ)。」ホンをよむのもおおきいイミではそうだ。おなじホンを なんかいもよむのと、よむたびにちがうホンを よむのでは ケツカがちがってくる。モチロン、おなじホンをよんでも イゼンとちがうカンソウをもつことはあるだろう。しかし、「かんがえる」、「ハッケン」というサギョウからいうと、ちがうホンをよんだほうが、それらはおおくハッセイするだろう。この「ハッケン」なり「かんがえる」を「ノウトウ (あたまがうごく)」するということにする。ノウトウするとシンカするかんじだから、シンカをおさえなければ、サコクとか、セキシヨをもうけたりするのがユウコウだろう。ただ そのドがすぎてしまったのがえどジダイだろう。ショガイコクとさがついでしまった。シンポのないヘイワとはおそろしいものだ (ここちいいような きもするけど)。だから わたしもノウトウさせている。

ヒャクロクジュウゴ

ニンゲンの「ノウトウ」はケイソクカノウである。デンジケイでも シツモンシでもいい。それではかられたブンだけハッセイしていることになる。ところで、ニンゲンそのものについては、タヨウセイがあるとされる。あるテレビばんぐみを見て、「わらいごえ」もイッシヨにながされることがある。タブン、「おおきな、シャカイセイがたかい」わたしなら そのときわらうだろう。しかし、「ちいさなジコシコウの」ジブンは そのときわらえなかつたりする。テレビばなれがなされている というから、「ちいさな」ジブンがつよいのかもしれない。ゲンダイは、キョウツウセイより タヨウセイがシコウされているのかもしれない。たしかに、ユウメイカシュがうたっていた。

ヒャクロクジュウロク

ガッシュウコクセイのギユウニクをたべ、ガッシュウコクセイのこむぎをたべるひとは、ジミントウタイシツ (●ロクジュウサン、ヒャクゴ、ヒャクロク、ヒャクゴジュウキュウ) といえるだろう。ジミントウは、「ニチベイアンポ」をすすめたし、ガッシュウコクセイのギユウニクや こむぎを ユニウするようにした。あるハンバーガーや (それもガッシュウコクキギョウのケイレツだ) もやっぱりうけている。その「ジミントウタイシツ」のひとは、たべものが、ガッシュウコクジンとにかよっているゆえに キンジセイをもつだろうと。たしかに イデンシはニホンジンだろうけど、からだをつくる ブヒンがガッシュウコクセイもまじるということだ。サイキンよくみる、セツケイはニホンでやっているが、セイゾウは ガイコクというセイヒンににている。だから、ガッシュウコクのひととケンカしにくいだろう。サイキンは、チュウゴクセイのたべものがあるから、「シンチュウゴク」タイシツのひともあるだろう。そういうタイシツのひとも、やっぱり

チュウゴクジンとケンカしにくいだろう。

ヒャクロクジュウシチ

だれが どうした、とかなにが どうした、とか、そういうジョウホウは ダイジだろうか。タブン、カンシンのあることがらについてはしりたいんだろう。しかし、カンシンのないことについてはしりたくない。その「しる」についての「センタク」は アンガイむずかしかったりする。テレビだ ラジオだつけていても、カンシンのないこともホウコクしていたりする。それならと「ダツチ（しらない、わすれるなど）」することもできる。ヨウするにホウコクをうけないだ。

なにが どうしたといっても、それはだれかのケンカイであって、トウケイテキにユウイ（トウケイガクテキにただし）といえるなにかであっても、はずれチ（かたよっているあたい [ばあい]）があるわけで、わたしのケンカイではないから、あえて、しらずに、ジブンでなにかをカンサツしたりして、ジブンのケンカイをもつことをしてもいい。だれかの、ケンカイがダイジなわけじゃないから、そういうのを「ダツチ」すると、だれかのかわりにロンソウするみたいなのが へっていいとおもう。

ヒャクロクジュウハチ

「シミンウンドウハ」といわれるようなひとたちは、ふたつのシツパイをしたはずだ。ひとつはやっているしごとをホウキして、シュウニュウがへったこと。もうひとつは、「セイジテキ」なことをしてシュウニュウがえられなかったことだ。わたしもいまではだが、わかひころは、「セイジテキ」なことにちからをいれてしまい、シュウニュウがのびなかったことがあった。だから、ウェーバー（ドイツのシャカイガクシャ）は「ニチジョウにかえれ」といっていたようだが、ウェーバーをよむのがおそすぎた。いまでは、そうしたハンセイをいかし、「セイジテキ」なことはひかえるようにしている。

ヒャクロクジュウキュウ

キュウジュウネンダイの「シャザイガイコウ（●キュウジュウハチ）」はよくなかったとおもう。あやまっておわりみたいで。おとながそんなだから、ショウネンハンザイがふえたのではないか。どうせ あやまっておわりでしょと。しっかりやることがダイジだとおもうが。それでもまだ シャザイヒョウメイをヨウキュウされてしまう。しっかりしろと。むかしだったらちゃんとガイコウが できたはずだが。

ヒャクナナジュウ

セイフがジンコウをヨクセイするようなセイサクをとると、かくれたひとができてしまう。テキセイスイジュンがああだから、それはヨジョウとか。ショクリョウがあるかぎりにはダイジョウブそうだけど、まあ そういうセイサクをとってしまったら。でもチキュウジョウのジンコウはもっとふえるんだろうか。

ヒャクナナジュウイチ

サイキンは、いえでガメンをみながらかいものができる。しかし、きをつけないと、よけいなジョウホウをシュトクしてしまう。なんかのセイヒンジョウホウだったり。それをみると、セツケイがわかったりするから、セイゾウをするニンゲンにはむかない。タシャのセイヒンをケンキュウしてセイヒンをつくったとすると、ニキュウヒンあつかいだろう。だから、そういう、セツケイズはみないにかぎる。「しらぬがほとけ」、わたしにいわせれば、「ダツチ（●ヒャクロクジュウシチ）」である。

ヒャクナナジュウニ

わかいころ、「カラオケ」がにがてだった。ベツにジブンのオンガクをやっていたのだが、そんなものはカラオケのキカイにはいっているわけがない。で、しょうがなくエイキョウをうけたキョクとかエンカとかうたったり、うたわなかったりするのだが、なんかいごちがわるい。いまおもえば、「カラオケ」っていうのは、「サクシャ」の、または「カシュ」の「ころ」をよみあげるわけだから、そういう「ころ」についてのカンジュセイがあったほうがよい。しかし、それがとぼしかった。いまならエンカをうたうんだろうか。イッポウで、コスプレなんてものもある。あれは、いまでもわからなかったりする。おかねやロウリョクをつかってヘンソウする。たのしいのだろうか。

ヒャクナナジュウサン

コーヒーとミルクがリコンしたらどうなるか。おいしいコーヒーギユウニユウがのめなくなってしまう。カカオとミルクがリコンしてもこまってしまう。でも、ニホンジンなら、さかなとショウユがリコンしたらこたえるのでは。ショウユのかわりってなかなかないかな。

ヒャクナナジュウヨン

ひらがなはまるっこくてかわいげがある。しかし、カンジはどちらかという、チョコセンテキでトシテキなかんじがする。チュウゴクのレキシテキトシは、チョコセンをコ

ウサしたりで ほぼ シカクにコウセイされている。ジョウヘキをつくるうえからも そうしたセッケイになるのだろう。だから、そういうかんがえかた、ブンカが カンジをハッテンさせたりしたのだろう。しかし、ひらがなは むかしニホンも チュウゴクのチョクセンテキトシのようなトシ、ヘイジョウキョウ、ヘイアンキョウをつくったにもかかわらず、できあがった。それからかんがえると、ニホンのばあい、トシのシハイとかブンカがチュウゴクとくらべ、よわかったのではないかと。ゲンダイになって、チホウブンケンなんていうけど、むかしは それができていたんだとおもわれる。

ヒャクナナジュウゴ

サイキンになっておもうのは、「ジコジツゲン (マズローハクシ [ガッシュウコクのシンリガクシャ] のいうもの)」というのがゴカイされていて、ゴヤクだったのではないかということ。ダイタイこのことばをきくと、ジブンのやりたいことを タッセイするというようなイミでとらえるとおもう。しかし、わたしは、そういうことじゃなくて、ジブンのやりたいことをやりつつ、かつ、それが タシャにも リエキになるということではないかとおもう。それってむずかしいから、マズローハクシはタッセイダンカイの ジョウイに それをおいたんだろうとおもう (ほかには、たべものにフジユウしないダンカイ、タシャにショウニンされるダンカイなどがある)。だから、ジブンのやりたいことをやっただけでは、その、ジコジツゲンとはいえないのだとおもう。たしかに、ジブンのやりたいことをやるのは、そのタッセイカテイの イチブだ。しかし、どうもゲンロンテキに、「ジブン」のことばかりキョウチョウされていたとおもう。だから、ヤクのイミとしては「ジタジツゲン」なんだとおもう。ゴカイのないようにヤクせばそうなる。

ヒャクナナジュウロク

なぜか チュウカそばをたべたくなったりする。ニホンのチュウカそばは ほとんどエイヨウがない (レイガイトテキにチャーシューがある [そんなにやすくなかったりする])。それなのにである、レイセイにかんがえると ギユウドンやに いったほうがいい。しかし、なぜかたべたくなってしまう。まあ、しるが よいのだろうか。しかし、ニクじるのぬけたニクと ニクジルならニクジルのぬけたニクをえらぶはずだ (●サンジュウサン)。しかし、ニクじるが いいときもあるということか。

いや、ニクじるのうまさにユウワクされているんだと。きをつけないといけない。ただ、マイニチたべたいわけじゃないので、たべたくなったら たべたらとおもう、わたしは、マイニチたべていたジキもあったが、さすがにやせた。

ヒャクナナジュウシチ

トシはセイサンしないのだからちいさいホウがいいじゃないかとも おもう。しかし、ゼイキンがトシ、シュトにあつめられ、トシ、シュトでつかわれるから それなりにトシ、シュトはハンエイする。もし、ドウシュウセイがはじまったら、シュトはそれほどさかえないんだとおもう。まあ、スイタイするトウキョウをみたいわけでもないが。

ヒャクナナジュウキユウ

ゴ、ロクネンまえは ホンをネンカンゴジュツサツくらい よんだだろうか。そのおかげでホンをつんだりした。ま、それからホンだなをつくって、おさまるようにしたが、そのうち おさまりきらずあふれるようになった。しかたないので、よみかえさないであろうホンはふるホンやで ショブンした。それでも おさまりきらなかったり。ケッコウよまないのであるホンがある。しかし、いつかよむであろうととっておく。そんなだから、ホンのフロー（カイトン）がわるくなる。おもいきって、フローをよくしたいもんだ。

ヒャクハチジュウ

ふるホンやで ホンをみつけるのがジュウサンネンぐらいまえからの シュミで、ジュウネンイジョウふるホンやに たちよったりしていた。しかし、いまごろは、ふるホンをよみつくしてしまったカンがあるので、あまりふるホンやにはいかない。ダイタイ、チョシャをキジュンにして ふるホンをかっているの、ハッコウされているのをゼンブよんでしまえば かうことがなくなる。シンキ（わたしにとって）のチョシャのホンは、キョウミがあればかうが、なかなかあえなかったりする。もっともホンを よむジカンをサイキン あまりとってないから、シンキのチョシャでよさそうなものがあったりもかわない。まずは、ホンだなから とりだしてよむのがさきだろう。でも、あまり やすみがなかったり、ジカンを ユウコウにつかっていたりで なかなかよめない。まあ、かうことがすくなくなったので、ホンがあふれるということは なくなってきたが。

ヒャクハチジュウニ

ヨーロッパでは、シュウキョウカイカクなどで ひとのあつまり というかがばらけた。そのゴ、センソウをしだした。このシジツからいえるのは、ちがうとかベツだといいはじめ そうしてしまうと、「ベツもの」だからとフンソウになってしまうことがある。ということだ。だから、ヨーロッパは、もうイッカイゴウイツしようとしている。それはただしいとおもう。ニホンでは、ドウシュウセイとかいうが、やっぱりしっかりしないとセンゴクジダイのようになりかねない。「ちがう」とか「ベツ」にはチュウイしなくてはいけない。

ヒャクハチジュウサン

「あるくからかんがえる (●ヒャクロクジュウニ、ヒャクロクジュウヨン)」、かんがえるとドクトクのイケンをもったりする。それをセイヒンにすればドクトクのセイヒンができる。だから、ヘンカをもとめないとなると、「サコク」や「セキシヨ」をつくるのがいいホウホウであろう。つまり、イドウにセイゲンをかける。まあ、えどのころにやっていたんだろうけど、そのおかげで、ブブンテキにはヘイワだっただろうが、コクサイテキにみるとよわくなってしまった。ケツカとして ギジュツなどを ユニユウしてがんばろうとしていたのだろうが、まあ、カッタウになってしまった。やっぱりあるかないとだめなんだといえるだろう。しかし、ヘイワなジダイにはきらわれるかもしれない。なにかセンモンテキなしごとをしているとなかなかあるくジカンがなかったりする。でも、あるくようにしたホウがいいだろう。

ヒャクハチジュウヨン

ブツゾウは リツゾウもあるが、ダイブツというすわっているものが おおいとおもう。しかし、ガッシュウコクのニューヨークにあるゾウは、あれも おおきいようだが、たっている。あれも、ダイブツとみなせば、めずらしい、ダイブツとなる。「トウヨウの」ダイブツはすわっているが、「セイヨウの」ダイブツはたっている (トウヨウにもたっているダイブツはあったとおもう)。なんか、「センシンコク」と「ハツテントジョウコク」のはなしみたいだ。たっているのは、ロウドウをしているからと。ロウドウが よしとされる。ニホンジンにもちいさい「たっている」ダイブツが おくられたというから (トウキョウのオダイバにある)、やっぱり ニホンもセンシンコクなのだろうと。のどかなのもいいとおもうが、やっぱり、「ロウドウ」だろうか。「ケイキがよかろうが、ロウドウだ。」というイが ふくまれているようなきがする。

ヒャクハチジュウゴ

テレビジュゾウキ。わたしが こどものころからすでにあっただが、おもいだしてみると、しろくろ、テレビもみていたキオクがある。ほかに、きの フレームがつかわれているテレビジュゾウキとか。いまおもえば、きのフレームのテレビはすごい。さがせばてにはいるのだろうが、あの、インキョクカンテレビのおもさをコウリヨすると、かっこいいのだが あまりほしいとはおもわない。そのテンわたしはあまりヒョウカしていなかったが、エキショウテレビのかるさ、うすさは ヒョウカできる。だが、ちいさいサイズのものあまりうっていないきがする。ジュウヨンガタとか そのくらいのおおきさだとジャマにならなくていいとおもう。しかし、いまのデンサンキにチューナーをつないでみているので、わざわざ スペースをカクホしてかいたいとはおもわないが。まあ、ちいさいのがいい。

ヒャクハチジュウロク

わかいころ、なぜか ケイタイカノウなデンサンキを もちあるこうとしていた。そのために デンサンキがはいるかばんをかったり。しかし、ジッサイにデンサンキを もちあるいたのはガクセイのときだけである。ま、ガッコウをつかってもよかったのだが、まあ、アイチャクがあったんだろう、もちあるいていた。だからくせといえぱくせだ。しかし、それでジッサイにやくにたったのは、みちがわからなくて、チズをケンサクしたときだけだ。コウシュウデンワにセンをつないでチズのジョウホウを シュトクしたそのイッカイだけ。デンサンキはそんなにかるくないし、もちあるいても、アンガイつかわない。モジをうつだけならコガタデンサンキがいい。ポケットにもはいるし かるい。で、なおかつもうてる。わたしのは、カンデンチクドウだからデンチぎれのシンパイもない。ただ、ザンネンながら、そういうのはいまあまり つくられていないようだ。モジをうつにはチョウホウしているのだが。

ヒャクハチジュウシチ

エイゴをよんでいると、そのうちラテングにぶつかる。きにしなきゃ そのままよみつづけるのだろうが、ひととおり よもうとおもったら ラテングのジジョがヒツヨウだったりする。わたしも そんなかんじでラワジテンをかった。それはそれで、ニホンゴヤクをひけるからいいのだが、ギャクに ニホンゴをラテングにヤクしたいとかなると、そのジジョではおてあげ。ホンやでワラジテンがないかとさがしたがしばらくみつからなかった。サイキンようやくひとつみつけた。なんか キチョウなような きがしたのですかさずかった。センモンテンにいけば あるのかもしれないが、いまのところそのイッサツだけしか知らない。まあ、いいしごとをしているひとがいるもんだ。

ヒャクハチジュウハチ

このまえたベホウダイのみせにいった。ニクとヤサイ、ちょっとのリョウリがたベホウダイ。で、モチロンというか、ショウブにいつているかんじだったので、ニクをとにかくたのんで、ショウリをつかもうとおもった。わたしのケイサンでは ニクをニジュッさらカンショクするとソソエキブンキテンにタツする とのことであった。だから、ニクをとにかくチュウモンした。ジュッさらあたりまではケンチョウにたべていたが、それをこえると、ヘンカがほしくなった。おろしショウガをまぜてみたり、つけものをたべてみたり。そういう、ドリョクをしたのでたべすすめられたが、ジュウロクさらに チェックアウトにいたってしまった。まあ、ジンケンヒとか チンリョウとかふくめれば、ひきわけぐらい とかんがえつつも、モクヒョウにはとどかずであった。しかし、またチョウセンしたいとおもっています。マンブクにはなったし、おいしかった。

ヒャクハチジュウキュウ

ジュウイチ、ニネンまえ あるどんぶりごはんを カイハツした。あかどんぶりなのだが、つくるのにはてまがかかるし、できているソザイを かってくるとたかくなってしまう。しかし、サイキンは、ベツのヨウトにいいセイヒンがでていて、それをつかうとおいしくできる。たまごをおとして、あかだまどんにしてもいいし、チーズをちらしてあかニューどんでもいいし。なにかフウだけど、あかヤ(サイ) どんにもできる(ちなみにドクジカイハツです)。まあ、つぎは ニクものものつけてかんがえたいなど おもっています。

ヒャクキュウジュウ

むかしばなしのついでにもうひとつ。さきのあかどんぶりかこのあとでセツメイするのが、わたしが イチバンはじめに かんがえたりヨウリである。だから このリヨウリは、ニバンめか、サンバンめにかんがえたものである。

こどものころに、あげたうすぎりの じゃがいもがふくろづめにされているカシ(ヒャクゴジュウエンテイド)をみつけてたべていた。ほかにそのてのカシには、こむぎをつかったもの、とうもろこしをつかったものがある。その、うすくきったじゃがいもをあげたものは、はじめ、スウシュルイのあじつけしかなかったが、キュウジュウネンダイ、レイネンダイと シュルイがふえた。そのひとつをつかって、ほかにかつた ショクパンにはさんだ。それをなんていうかトクにきめていないがあげやすいもパンと とりあえずよぼう。それがわたしのゲンテンのような リヨウリである。うすくきったじゃがいもをあげたカシに あじつけされているので そのあじをかんじながらたべていく。それが ショキのサンサクのうちのひとつ。

ヒャクキュウジュウイチ

もうひとつが、ショクパンをつかい、あみでそれをやきながら、そのうえにココアパウダーをかけるもの。みつつのうちどれもがゲンケイは エイヨウがすくない。でも、そういうものでもおいしかったとキオクしている。

ヒャクキュウジュウニ

なぜ、セイヨウでは ドソウでニホンでは カソウなのか。タブン ニホンでは ごみをやくから ごみドウヨウにニンゲンも やかなければならぬのでないか。だから、ごみをやいたりしなければ、ニンゲンも やかなくていいのかもしれない。たしかにムダにやいているきもする。ごみをださないことがダイイチだが、うまくジュンカンさせられるものはジュンカンさせればいい。ジュウネンくらいまえから、もえるごみとサイセイさせるごみとかに わけるサギョウをしているが、もやすごみはへったんだらうな。ヘンなことをかんがえてしまった。カソウジョウでハツデンって。「まるまるさん、あのかたはばつば

つワットハツデンされましたよ。」「いやいや、まるばつさんは、ばつまるワットだからまだおよびませんな。」とか。

ヒャクキュウジュウサン

サボるとかいうよくいわれそうなことばがある。しかし、このことばもニホンゴだとおもっていらっしやらないだろうか。アングイ そういうのにビンカンになってしまえばこたえははやい。こたえは、サボタージュ。その「サボ」とらギョウゴダンカツヨウのシュウシケイの「る」。そういうことばはほかにもあるが、チュウコウセイにわかるかと。わたしがチュウコウセイのころは、フランスのことばもいわれた。なんとなくわかったようなきがしていたが、わりとサイキンになってそのイミがわかったり。トウのセンセイもホントウにわかっていたのかとおもってしまったり。だが、そういえばわりとそのとおりにしていたりするからおもしろい。なんていうのだろうか、あたまでは、というか、イシキでは、わかっていないのだが、シンタイテキにそうしてしまったり。そうかんがえるとわりとすなおなガクセイだったのかともおもってしまう。だから、ひどいイミがかくされたことばをキョウシのたちばでいってはいけないんだとおもう。

ヒャクキュウジュウヨン

「チャントしろ」なんてことばがある。わたしはこれをいわれたひとが、いわゆる、ニホンゴテキな「チャントする」んじゃないかと、うたをうたいだすんじゃないかとキョウミをもつ。「チャント（ニホンゴ）」、がはやかったのか、「チャント（シーエイチエーエヌティ）」がはやかったのかはしらないが、まあ、ことばはニホンゴにかぎらないから、そういうテンカイもありうる。「ことばはハツゲンシャのイトとはベツにイミづけられる。」ともきいたことがある。まったくそうかもしれない。

ヒャクキュウジュウゴ

ニホンジン「チョウジュ」といわれているが、ショクリョウのジキュウリツはヨンジュッパーセント。カンサンするとハチジュウネンいきたひとのヨンジュウハツサイブンは、ユニウということになる。だから、なんかのリユウでショクリョウユニウがテイシされると、ニホンジンのジュミョウはサンジュウニサイにちかづいていく。それならユニウにたよらずになんだがあまりうまくいっていないようだ。キカイものをうって、「ジュミョウ」をてにいれるなんてまるでレンキンジュツだ。

ヒャクキュウジュウロク

ゲンダイは、「トシ」がひろがって、おおきくなっているとおもう。「トシ」はいいとこ

ろかといわれるとわたしはノウソンのホウがいいとおもう。そんな「トシ」をひろげないドリヨクができるか。こたえはカンダン。ゲンゼイすればよいのである。なぜなら「トシ（シュト）」にながれるおかねがへるから。そういう「トシ」カクダイをふせげるであろうか。

ヒャクキュウジュウシチ

シコウをすればするほど、そのカテイのロンテンがふえていく。そのすべてがただしければ、「セイロン」といわれるのだろうか、まあ、ケイトウジュテキにみれば、シコウするほどそのかづがふえていく。ひとはかならずしも、ただしいといわれるケンカイをとるわけでないだろうから（まあトウケイのユウスイジュンみたいなはなし。カンタンにいえば「ゴサ」があると。）、シコウもすればするほど、その、ギロンへの「シジ」がへっていく、「シジ」がブンサンするからだ。だから、もっともユウシュウなシソウカは、「おなじこと」しかいわないであろう。「セイジカ」は、シソウカ、とちがうかもしれないが、サイキンは「ニンキ」をもうけて、「セイロン」レースをする。なぜ「ニンキ」をもうけるかという、それイジョウ「セイロン」がつづかないのであろう。ゲンダイの、コウホウ（ホウソウやシンブンなど）があるシャカイでは、なにもいわないのはむずかしいし、あえて、「バキヤク」をあらわさせてやろうとシツモンすることもある。こうしたコウホウジンのシツモンに「シジ」をおとさずにこたえられるのは、ながくてヨネンなんだろう。つづくとハチネンと。だから、まるまるハクシがそういつていたとか、まるばつセンセイのセツではとかいえばながもちするかもしれないが、いまのジダイ、そのまるまるハクシがシジをしなければセイロンじゃないになってしまうかもしれない。だから、むかしのことばとか、しんでしまったひとがいつていたことばをいうのかな。「セイロン」レースはきょうもつづく。

ヒャクキュウジュウハチ

ニンゲンには、「ふるい」ノウと、「あたらしい」ノウ（●ヒャクサンジュウハチ）があるとおもう。カイボウガクテキには、「あたらしい」ノウは「あたらしい」とされているようだ。では、「あたらしい」ノウはなにをしたかという、それまで、なかった、あたらしいものをつくったか、「あたらしい」ものをつかうためにできたんだらう。あたらしいなにかができたりするまでヒツヨウなかったんだから。まあ、「ショッキ（ドキなど）」なんかイチバンはじめのころにつくられたニンゲンのハツメイヒンではないだろうか。それイコウ、ことあるごとにハツメイヒンがツイカされいまにいたっている。みまわすと、ハツメイヒンだらけというところもあるんだらう。「ショッキ」がさきにできたのか、「あたらしい」ノウがさきにできたのかはわからない。しかし、いままでないものをつくっているうちに、「あたらしい」ノウができたとはスイソクできる。いままでないサギョウをするわけだから。そのできた「ショッキ」をつかうホウもやはりいまま

できていなかった サギョウをするわけだからやっぱり「あたらしい」ノウが できあがる。そんなハツメイヒンがふえるごとに「あたらしい」ノウがふえていったと。まあ「あたらしい」ハツメイヒンの ほとんどはホンシツテキには フヨウだろうが、そうはいつでも ジンルイシをヒテイできない。なぜなら わたしも、ハツメイしてしまうからである。

ヒャクキュウジュウキュウ

「ダルい」ということばがある。これもどっちがさきだかわからないが、「ダル (ディューエルエル)」ということばににている。キンダイにできたことばではないようだから どこかでコウリュウがあったのかとおもう。えどきに コウエキをゲンテイしたというインショウがつよいから。でも そのまえなんだろうとおもう。

ニヒャク

シンカというと イッポウコウテキにシンカすると おもったりするが、そうでないシンカもあるとおもう。わたしは「ギャクシンカ」というが、たとえば、ゲンダイなのに、チュウセイ (レキシクブン) テキなシコウにすすんだり、ちょっとまえにでていた セイヒンをシジョウでさがしたり。わかりやすくいうと、デンサンキをつかうわたしがタイプライターを かうというコウドウだ。わたしは、ジカンジクにそっていきているが、イッポウ ジカンジクには そわずに ゲンザイからいうとふるいなにかに トウタツしてしまうことだ。としをとってブッキョウをやりだした というのもそうだろう。そういうのがあるとサイキンおもう。

ニヒャクイチ

「エンブ (ティ) (イーエムピー [ティワイ])」は エイゴではラテンゴとはベツのイミをもつが、プロテスタント (キリストキョウカイクハ) ともカンケイするかもしれない、エイコクのテツガクがみえる。「からっぽ」になってしまう。「からっぽ」にしてはいけない。そういうテツガクと ドリョクが エイコクを ダイエイテイコクにみちびいた

んだとおもう。「ひとは いしがき」といういいかたがあるがそれにちかいかもしれない。でも テツガクだけでなく、ジッサイのショミンのドリヨクがあつてのタッセイだろう。

ニヒヤクニ

「サパー (エスユーピーピーイーアール)」というゴも、「サプライ (エスユーピーピーエルワイ)」ということばにている。もとは「ホキユウ」とかそういうイミなんだろう。ニホンゴにも「さっぱり」ということばがある。それは、シツソにとかマンゾクとかいうイミがある。「さっぱり」だから、「さぱーりー (エスユーピーピーイーアールエルワイ)」というハツオンがちかいだろう。ケントウすると、「サパー」のようにというヤクができる。うみをわたって、「サパー」というゴがはいってきていたとすれば、ニホンゴ (とってよいかだけど) の「さっぱり」は、さきの「さぱーりー」のように「サパー」のケイヨウをしているはずである。で、それが、シツソとか マンゾクとか。まあ、うみをわたってきたのが ありがたいとすれば、エイコクジンはそういうイッショク (あるシュルイのショクジというイミがある) をめしあがられているんでしょう。うわさでは、そういうはなしもきくから、ありがたいのかもしれない。やっぱり、このことばもテツガクをかんじさせてくれる。

ニヒヤクサン

カガクというのは、エイゴで「サイエンス (エスシーアイイーエヌシーイー)」という。ドウギゴに、「シザース (エスシーアイエスエスオーアールエス)」がある。これははさみで、キョウツウするのは、「きる」とか、「きりわかる」ということである。「ブンセツ」ということばがあるが、たとえば、「ショウユ」を、「ショウ」と「ユ」にわけてしまうことだ。「ショウ」と「ユ」に わけてかんがえる。それぞれをケンキユウして、さらに「ショ」と「ウ」、「7」と「|」にもわけてしまうのはありうることだ。で、それについて ロンじたとしても、それを わかるひととわからないひとに わかれてしまうから、「カガク」はひとをわけるともいえるかもしれない。

わかるひとと わからないひとが あらそいはじめるとタイヘンだから、「ケイモウシュギ」とか、「ガッコウキョウイク」といってカガクのセイカをひとにおしえこんでしまう。「ケイモウ」や「キョウイク」をうけるひとも、よりおおくの、カガクのセイカをまなびたいとかおもったりするから、また、ショトウキョウイクはともかく、よりよいキョウイクを うけたい、うけさせたいといって、たかいかねをはらう こどもやこどものおやもいるから、ケッコウ「ケイモウ」や「キョウイク」はハンジョウする。くにや ジチタイがトウチのソクメンがあるから、ヒヨウを、ショトウキョウイクではフタンするが、それイジョウに キョウイクを とおもうようだ。

でも、よくかんがえれば、それは、だれかがみつけたり、かんがえたことだから、そのひとは それを しんじようがしんじまいが、そのひとジシンで、ハッケンするキカイ

をうばってしまう。たかいおかねをはらってまで、そのひとの「カガク」のキカイをうばってしまうことはわたしには あほらしくおもえる。だからわたしは、どうしてもコウトウキョウイクを というのであれば、そのひとがダイジにしてないブンヤを センタクして リシュウすることをすすめる。それならば、ダイジなブンヤは まるで シゼンのように、てつかずでオンゾンされる。ムリヤリカイハツするヒツヨウはないのだ。そうすれば、ゴヒャクネンおくれのニュートンみたいなひとや、サンビャクネンおくれのダーウィンみたいなひとがでてくるカノウセイがあるし、もっといえば、ゲンダイのだれそれがでてくるかもしれない。わたしも どうでもいいブンヤをセンコウしてよかったとおもっている。

ニヒャクヨン

チュウゴクのレキシなんかでは、セントウにまけはじめと、ヘイがにげちゃったりしていたとおもう。そういうのにくらべて、サイキンのセンソウは、ヘイがにげにくいんだとおもう（●ナナジュウハチ、キュウジュウハチ）。むかしだったらそれで タイショウがころされたりしてイツカイおわり。イツカイまけちゃうと ヘイも あつまりづらだろうからキュウリョウもあがるんだろう。しかし、またつぎのたたかいでもまけちゃうとまたにげるだろうから、そのトウスイ、オウだったり、のところにはヘイがあつまりにくくなり、そのトウスイがころされて おわりとなる。

でも なぜにげにくくなったか。それは、くにみたいのをキョウチヨウしたり、「コクセキ」とか「パスポート」とかつくったからだ。そういうのをやめちゃえば、ヘイはにげられるから、「わるい」センソウでなく、「よい」センソウになる。

ニヒャクゴ

ヨーロッパのひとはジュウゴセイキぐらいから、セイシン（にしにむかう）したり、セイナンシンしたりといわれる。ニホンジンも ジュウキュウセイキのおわりぐらいから、ホウコウテキに、セイシンしたり、セイナンシンした。ヨーロッパではそのゴイキナイフンソウがおきた。また、シンシュツさきでも、セントウがあった。そういうレキシコウゾウを かんがえると、カンタンには、ドウシュウセイはとれないんだとおもう。いまでこそ ヨーロッパはまとまりがあったりするが、それまでフンソウがつづいた。ニホンでも、センゴクがあったことだし、それはむずかしいと おもわれる。

ニヒャクロク

サイキンおもうが、「セイギ」っていうのは、「ただしいこと」ではなくて、「ながくつづいていること」なのだとおもう。ながくつづくリュウがあるのだろう。それは、「おおか

たがみとめつづけた」という、ジジツ、シジツである。だから そういうものにとってかわるといのは それなりのものでないと といえそうだ。だからわかものウンドウを「ガクセイウンドウ」というのだろう。ロンリテキなセイギが どれほどのものなのか。やはり つづいているホウが、おとながかつのだろう。

ニヒャクシチ

ひとは「シッパイ」というわくぐみやソウチを ヒツヨウとするから、セイシンビョウインがなくなるのだろう。むかしのヨーロッパでは、ザンゲシツだったんだらうか。でも そういうのは いまでもヒツヨウなんだらう。わたしも、シッパイシツをつくろうか。

ニヒャクハチ

サイキン、ごろねをしながらヤキユウをみるというのが すきになった。もつとも、ヤキユウはあまりテレビでホウソウしなくなったので、サッカーだったりするが。なにもみてないと、しごとのことなどをかんがえてしまう。かといって うごきまわりたくないときにはぴったりだ。でも、オウギは、しごとをしながら やすむこと。

ニヒャクキユウ

「クウチュウテイエン（そらに うかぶテイエン）」など できるものか、などとおもっていたが、できるのが わかるといろいろモンダイがでてくる。ニッショウケンとか。ま、カイケツはカノウとおもうが、というより、クウチュウはだれのものか、というギロンになる。ま、いまのところ、クウチュウのいえのケンセツヒョウが ヒャクオクエンはかかるとおもうので、あまりモンダイにならないが。

ニヒャクジュウ

つづいているのが「セイギ」、つづけるのが「アイ」だとすれば、「セイギ」を「アイ」するのがただしいのらうか。でも、コジンの「エン」っていうのもあることだから、レキシのみじかいものを「アイ」したりするだらう。でも、レキシのながいものでもみじかいものでも、「アイ」することがコウヘイだらう。ただ どうしてもアイせないとか アイしづらい ながかかてくる。いわゆる「ごみ」である。そういうのを ださないようにとかおもうが なかなかむずかしい。たまに、「ごみ」といわれるようなもの、ですら「アイ」するひとがいるようだが、「アイ」がふかいとは、ひとはあまりいわない。でも、「アイ」とはそういうことだらう。だから、イッパンテキにいう「セイギ」とか「アイ」って

いうのは、いくぶんレッカしたものなんだろう。レッカするまえの「セイギ」や「アイ」をロンじたり、シンボウすることを、「アイデアリズム (リソウシュギ)」、レッカしたあとの「セイギ」や「アイ」をロンじたり、シンボウすることを「リアリズム (ゲンジツシュギ)」というんだろう。

ニヒャクジュウイチ

サイキン「わたしは」、ウンドウブソクである。むかしは、ただ、あるくだけのために、そうではなかった、いいホンを みつけるためにでもあった、ふるホンやにかよって、トチュウでヤチョウをみたりしたが、サイキンは ホンだからホンをへらしているぐらいだから、すきでもなかなかホンをかうきになれず、したがって、キブンテンカンにもいいとわかっていても、サンポをしない。もっとも、しごとがたまりすぎていてすすめたい というのもあるのだが ジカンをみつけてサンポするかともおもう。ツイカすると、「アイ プレイ 、、(●ニジュウニ、ロクジュウニ)」とってしまったから、テニスをやろうとおもっている。

ニヒャクジュウニ

わたしは、「シホンシュギ」というのは、それぞれのオーナーが、「わるいやつ」からザイサンを まもるために いろいろなクフウをしていこうとするかんがえとおもっているが、そのひとつのレイとしてき (くだものなる) のケイタイがある。「わるいやつ」は、「はしご」をもっていないので、「くだもの」をとれない というソウテイである。くだものはたかいところになり、みきのしたのホウはえだがない。そういうケイタイが おおいとおもう (●ニジュウキュウ)。きがさきか、シホンシュギがさきかはわからない。それをわたしは「シホンシュギのケイタイ」とよぶ。そのシホンシュギの ケイタイに ニホンのネンレイベツジンコウコウサイズが にている。いってみれば、ショウシコウレイカはシホンシュギだからしかたない、といえる (しかしあるカンサツでは、したのホウが さかえることもカノウなようだ。ただ、ニンゲンが あたらしい「シホンシュギ」のケイタイになれるヒツヨウがありそうだが)。つまり うえのホウがさかえているのだ。ま、わかいひとのカンシンは、「み」がおちてくるかというところだろうか。

ニヒャクジュウサン

「わるい」ことがあると、それにとらわれて、それについてエンエンかんがえたり、カイケツサクを かんがえたりで、「わるい」ことのエイキョウから ぬけられなくなったりする。ニジサイガイがっていうのもある。だから、そういうときは、それについてかんがえるのをやめて、キブンテンカンをしたりする。サイキンよかったのが、おわらいのビ

デオである。とにかくそれについてかんがえずに、わすれるようにしたり。「みずにながす」っていうのは、まえはムセキニンだとおもったが、ジブンでコントロールできるものイガイは、コントロールできないわけだからそれイジョウかんがえてもしょうがないわけで、「いい」ジュンカンにもどせるようにするにはいいかなとおもう。

ニヒャクジュウヨン

「しらぬがほとけ」という。なにかイリヨウジョウホウばんぐみとかで ショクハツされたのか、「あれは からだによい」とか「あれは、 、になるからだめだ」とかいたりするひとがいる。で、「あれになったら ああなる。」とかいいだす。それはダイタイあっているのだろうが、イガクだってトウケイガクをつかっているメンがあるので、かならずしも、そうはいえない。5パーセントや1パーセントのゴサはあるのだ。だがそうにもかかわらず、「あれは ああだ」とかつづける。そして その、トウケイテキジツをシジするのである。そういうはなしになったときは、「ちょっとまってくれ。」といてにげるようにしている。そして、そのでの テレビばんぐみにもちかづかない。「クンシ あやうきに ちかよらず」である。

ニヒャクジュウゴ

サイキン、チュウカそばでなかなか、なるとにであわない。シナチクも みかけないきがするが、タンにわたしがショウユチュウカそばを たのまないからであろうか。たしかにまえからみそチュウカそばやしおチュウカそばには、なると はのってなかったが。おいしいのだが なかなかうまくつかえないセイヒンである。

ニヒャクジュウロク

ゆずも ニネンたって、そこそこみをつけるようになった(●ハチ、ニジュウハチ)。まだカンゼンにとげはなくなっていないが。まあ、でもみをつけるようになった。よかったとおもう。

ニヒャクジュウシチ

おとしはゆずだったが、ことしはうめだった。しらぬあいにえらくさびしくなっていた。ことしは みができるようクフウをしたのだが、このようでは トウブンむずかしいとおもわれる。

ニヒャクジュウハチ

どうもニホンのガクセイキョウイクは、「ギジュツ」より「チシキ」ジュウシなのかと。ま、センモンガッコウにいけば「ギジュツ」がまなべるだろうが、そのまえにいくコウコウに「ギジュツ」テキなガツカはすくない。そういえば、チュウガッコウに「ギジュツカテイカ」というカモクがあった。サイキンは、デンサンキを「つくる」ギジュツでなく、「つかう」ギジュツをまなばせたりしているのであろう。たしかに、サービスギョウのジュウジシャがふえ、ものをつくらなくなったというはあるがそれでも、ものはヒツヨウだ。だからそれをつくる「ギジュツ」はヒツヨウだ。しかし、そういう「ギジュツ」をまなぶガッコウにエンがなかった。いまになって「ギジュツ」をコウジョウさせようとしているが。

ニヒャクジュウキュウ

としをとると「ホシュテキになる。」とかいわれるがたしかにわたしもホシュテキになってきた。コウゾウシュギになってきた。でも、なにかを、チュウシしろとかいうようなかんじでもないの、そういうことはいわないが、ちょっとはなせるだれかにならそういうことをいってしまうかもしれない。まあ、きらわれかねないが。

ニヒャクニジュウ

ひとはまねることをこどものうちにおぼえさせられる。もし、おぼえなかったら、インソツウはできないであろう。なぜなら、まねるノウリョクをつかって、ことばをききとり、しっていることばとショウゴウして、そのイミをしるからである。だからよくインソツウするにはことばをまねできなくてはならない。だからブンをよんだりエイゴのジショをしらべたりする。それなら、よみあげるニカコクゴのシィディ、「すいかウォーターメロン」などといろんなゴについてエンエンととくものがあればエイゴはフトクイでなくなるとおもうがどうだろう。

ニヒャクニジュウイチ

ジンコウコウウ（あめをふらす）ギジュツというのがあるそう。チュウゴクでつかわれたようだ。もし、チュウゴクでみずブソクがシンコクになれば、そういうギジュツをつかってあめをふらすことができるだろうからチュウゴクであめがふって、そのゴのかわいたくうきがニホンにやってくるようになり、あめがふりにくくなるというジタイもかんがえられる。まあ、みなみからのタイフウとかがやってくるだろうから、なつばはみずにこまらないだろうが、それイガイは、フソクギミというケネンがでてくる。みずのジョウズなりヨウをかんがえたいものだ。

ニヒャクニジュウニ

「ジユウ」はタイセツ。でも「ヘイワ」よりタイセツかはわからない。「ヘイワ」などきは「ジユウ」はそれほどヒツヨウなかつたりするかもしれない。でも「ヘイワ」でないとなると、「ジユウ」でないところとかがでてくる。だからキセイをして「ジユウ」でなくせとかになるんだらうか。そうだとすると、「ジユウ」がギロンされるときは「ヘイワ」ではないかもしれない。ジユウシュギテキにヘイワをタッセイするか、キセイをしてヘイワをタッセイするかという。

ニヒャクニジュウサン

わかいころは、「コウガクレキビョウ」にかかっている、ひろくシャカイをしりたいとおもった。でもいくつかのジクでホンをよんでいき、また、しごとでネツシンになるにつれ、そうはおもわなくなった。そうおもわなくなったというか、いそがしくてそんなことやってられないようになった。しごとと、ガクモンテケンキュウでは、やはり、しごとのホウがダイジなのである。でも、ひまがケッコウあるならやってみたいとおもう。しかし、「ブンケンケンキュウ」ではタシャのコウセキによるところが おおきいし、「ゲンバチョウサ」ではヒョウとプライバシーのモンダイになる。だから、タブン、そのでのケンキュウは、ダイガクのショクインとかケンキュウキカンにいないとできないんだとおもう。いってみれば、「シャカイ」についてのケンキュウをするのはかねがねかかるのである。それでもいくつかケンキュウホウホウはカクホした。しかし、みのまわりのことをかんがえたホウがよいとおもい（シャカイのあるブンは、ジブンは、カンケイなかつたりする）、あまりブンケンをさがさなくなった。そういう、ガクモンテキなメンからはなれることによって、わたしは、むしろ「かく」ことができるようになった。ま、これもひとつの「ダツチ（●ヒャクロクジュウシチ、ヒャクナナジュウイチ）」であらう。「チシキ」からダツしたりすることである。

ニヒャクニジュウヨン

とうがらしをすにつけておいてたべるとおいしい。タンジュンなリョウリだがふゆにいいとおもう。わりとタイヘイヨウトウブ（いわゆるトウナンアジア）にはとうがらしをつかったしるとかがある。しかし、ニホンではあまりみないようなきがする。わたしはすきなのだが。とうがらしをさけにいれたらどうだろうとおもう。からいセイブンというかがさけにテンイすれば、ふゆにいいさけになるようなきがする。

ニヒャクニジュウゴ

けさ、ジーディーピーをカンサツしたら、あまりうごいていなかった。ヨジごろよりもゴジごろのホウがうごいているとおもう（イゼンのカンサツより）。やっぱりニツチュウがおおいのか、いや、ヤカンのホウがコウソクにうごけるし、つまりうごけるからシンヤによくジーディーピーはうごいていないのではないだろうか。しかし、ショウケンなどはニツチュウにうごくから そういうのはニツチュウだ。

ニヒャクニジュウロク

「ソウシツされたいくとし」みたいなことばがある。はじめそれはなんのことかとおもっていたが、かんがえてみると、タンにトウシへの Netz が なくなったナンネンってことだとおもう。なんかシンコクなモンダイかとおもったがそんなところだろう。バクチしなくなってよかったんじゃないのかと。でもエンだから うかれたかもしれません。

ニヒャクニジュウシチ

「みじかい」セイギもいいが、「ながい」セイギのホウがいいだろう。「セイギ」とあせらなくても、「セイギ」のタイキュウレースをすれば「ユウシュウな」セイギがのこるだろう。やっぱり「アイされる」セイギが、「よい」セイギなのではとおもう。モチロンこのみはあるだろうがそれは まあ ダトウなのではと。

ニヒャクニジュウハチ

わたしはまなんだことがあるが、「シャカイガク」はむずかしいテーマだ。なぜむずかしいかという、そのケンキュウタイショウがおおぜいだからだ。だから、チョウサケツカをもとに、なにかをカイゼンしようとする バクダイなエネルギーをヒツヨウとする。つまりところそういったことは、ひとりではできないのだ。でも、いきおいあるひとやショクギョウ シャカイガクシャは そういうことをやったりするだろうが、ただのひとりのシャカイガクトにはむずかしい。でも、そういうことをまなんでしまっているばあいは なかなか はなしにつきあってしまったりする。しかし、シテキはできてもほかになにもできない。そのシテキも ジッサイのところどうだかわからない。それなら しらなくてもいいねとなったりする。ジブンのしごとのホウがダイジだからだ。シャカイガクやっていいことがなかったとはいわないが、それは チシキとかチエがえられたことで、それなら、やっぱりしごとをしていたホウがいいとなる。しごとをしていたホウがおもしろい。だから、「コウガクレキビョウ（●ニヒャクニジュウサン）」にはチュウイだ。

ニヒャクニジュウキュウ

ゲンにあるものは「シゲン」という。じゃ、なかつたりするものはなんというか。わたしは、それをシゲンテキにリヨウできそうな「ない」ものを「クウゲン」とよぶ。ホンだながイッパイになって、あきクウカンをつくったときに かんがえた。ガクシャとかセイジカは チョシャのシュチョウを インヨウしたりしながら はなすからホンは ジュウヨウなシゲンで、あればあるだけいい となりそうだが、そんなにおおきいショサイを もてないわたしなんかは、それイガイのリユウもあるが、ホンをあるテイド かたづけないとベツのホンがおけなかつたりするから、やりくりしなければならない。わたしがブンをかくようになってからはほかのチョシャの ホンがへりつつある。しごとカンケイのショルイもシュウノウしなければならないし、まあしょうがない。ケッコウ、シゲンを かつたりしていたが、「クウゲン」がないとしごとがすすまなかつたりする。

ニヒャクサンジュウ

レイチョウルイは、ニソクホコウするというが(たしかにわたしもしている)、なぜ そうするか。チキユウがまわっているエンシンリョクが かんじられてきもちいいからかもしれない。でも、チキユウのカイテン(ジテン)からはなれると、うずまきリョク(●ヒャククロクジュウサン)からはなれるわけだから、ニソクホコウしてもきもちよくないだろうとおもわれる。そうすると、レイチョウルイのトクチョウはなくなってしまうのだろうか。

ニヒャクサンジュウイチ

ドウロがあったほうがジーディーピーははやくうごける(●ニヒャクニジュウゴ)。だから ニホンも やたらドウロをつくったんだろう。でも トシコッカなら はこぶキヨリが みじかいからジーディーピーも はやくジョウショウする。だから もっともひとりあたりジーディーピーがたかいのはかねもちのカテイとか、よくあるフウにいえば トシコッカなんだろう。だからトシコッカとくらべて ひくいとか あまりきにすることはないとおもうが。なんなら メンセキヒをくわえてサイケイサンするといい。

ニヒャクサンジュウニ

「キセイカンワ」とかいうそれってどういうことかということ、これまでがんばっていたキギョウやコジンのとりぶんを あたらしくサンニユウする キギョウやコジンにカイホウすることだ。わかいひと(トクに、ロウドウシャでない)にとってはおおきなカイである。まあ、しかし シュキユウハとかとりぶんをイジりたいというキギョウやコジンはいるもの。なかなかむずかしいモンダイだ。

ニヒャクサンジュウサン

ニホンの「キンダイ」はシケンセイゲンのせいだったとおもう。コクユウキギョウをつくり、コウリツガッコウをつくったり。ケツキョクは、グンがボウソウするまでになった。そして、「にげられないセンソウ（●ナナジュウハチ、キュウジュウハチ、ニヒャクヨン）」でケツコウな かずがたおれた。もっとも コクセキカンリとかコセキがあったりするから、にげにくいのだが、そういう、ボウソウがおこるかもしれない という とういう コクセキ、コセキをなくしたほうがいいかもしれない。それか、「グン」が、「ダツソウフリー（カノウ）」にするしかない。でも、シンリヤクテキナジダイだったからというエクスキューズをしてしまう。

ニヒャクサンジュウヨン

ゴネンほどまえ、とにかくしごとの リョウをふやそうとおもっていたことがある。しかし、ジツサイに ふえてしまうとどんどんたまっていく。だから サイキン は しごとをふやさないようにしている。ケツキョクは センタクなんだろう。むかしならキョウミをもったようなことでも、あえてみないようにしたり。でも、ジブンがシンポしたゆえのカダイなんかはすすめてみよう とおもったり。

ニヒャクサンジュウゴ

ストーリーという。ニホンでは、ものがたり。それにビンカンであれば、なかなかむずかしいメンもある。なんかのなんかをすてたとか。あるセイヒンのはこにちがうセイヒンがはいっている、いれたとか。むかしはあまり、ショウヒョウがつけられているものがすくなかったのだから あまりモンダイにならなかったとおもわれるが、サイキンのショウヒシャカイでは、ショウヒョウがついたものがおい。

ハウソウなどで ごみがたまるメンが（そのセイヒンがよくないからではない）あるからそのショブんにこまったりする。しかし、ごみやしきに したいとおもわない。どうしたらとなやんでいたら、サイキン、「ボーンアゲイン」をおもいだした。ニホンでも、リンネテンセイとかいわれるようなかんがえ（ホンライテキにいわれているのはちがうかもしれない）があるがそういうかんがえかたである。あのかんがえかたは ゲンダイのショウヒシャカイの たすけである。

ニヒャクサンジュウロク

むかしは トンカツにソースとかが せいぜいだったが、さらに なんかをのせてとかにしてもおいしいかもしれない。トンカツジタイもこったリョウリだ。そんな、コウゾウブ

ツのおおさにいやけがさして、そのままたべたりする。ヨウするにさしみのように、さしみカである。タブン、「コウゾウブツ」がおおいほどゆたかにつくるのがむずかしいのだろう。しかし、「さしみ」のホウがよかったりする。

ニヒャクサンジュウシチ

「グローバルカ」のあるイチメンは、エイゴではなす リョウイキがひろがっていくことなんだろうとおもう。ガイコクジンと そのくにのことばとか ニホンゴではなせばいいかもしれないが、それは すごくてまが かかる。そこのところエイゴではなせばツウじてしまう。そういうヨウリョウで、エイゴができれば、ものをかうにしても、カイガイからやすくかえたり、シツのいいものをてにいれられる。そういうグローバルカを ヒテイしにくいものである。

ニヒャクサンジュウハチ

ジショというのはすごい。そのなかに、ブンメイがならべられているようだ。おもいだしてみれば、ショウガクセイのときにコクゴジテンと エイワジテンをもちはじめ、いくらかひいただろう。だから、ひらがな、カタカナ、カンジやアルファベットには なれている。だから、フランスゴのジショをみても あまりあたらしいカンドウはなかったし、ラテンゴのジショをみてもそうだった。しかし、サンスクリットゴジテンをみるとすごいブンメイだとおもわざるをえなかった。むかし、ダイエイテイコクの ハクブツカンにいろんなものがあつめられたときいたが、それにちかいカンカクかもしれない。かざりばこにでもおさめたいとおもった。

ニヒャクサンジュウキュウ

ボウエキコウショウで、「カカクが やすくなる」というのをうりにすることがあるらしい。しかし、ホントに やすいのかはうたがわしい。ある ショクドウでは、のみものなどを ジブンでとりにいくというのがあるが あれとおなじである。つまり、「ジコセキニン」とか「ジコホウシ」することのようになにかがあるからである。たしかに あるやすうりテンはやすいが、そこにいくまでに ケツコウなヒョウ（くるまのイジヒは やすくない。）がかかるからだ。それをかんがえるとゲンジョウでいいとかなったりする。ま、「[カカク]より[アンシン]のホウがダイジだ」とでもいえばよかった（いい）のだろう。

ニヒャクヨンジュウ

「しきいがたかい」とかいう。ヨウするにはいりづらいわけだが、ガッシュウコクのひとのいいかたをすれば、「しきい」でなく「バリアー」があるという。ガッシュウコクでは、

コクジンのコウミンケンウインドウがあって、かつての「バリアー」をテッパイしようとした。だから「バリアーフリー（ワセイエイゴだったら ごめんなさい）」なわけだが、ニホンではトクに モンダイにされない。ただ、からだがフジユウなかた とかコウレイシャのために、ブブンテキに「バリアー フリー」のコウゾウブツにコウカンしたりしている。そんな バリアーだが、そこにあまりいかないと、バリアーを かんじるようになってくる。ケッキョクショウヒンや ショウギョウホウシ（ユウリョウのホウシ）のセンタクのモンダイでは というきがする。それを「バリアーフリー」というと、カイキュウをこわす カクメイみたいなものだ。

ニヒャクヨンジュウイチ

ニホンには たちぐいそばやがある。たったままで たべるわけだが、ガイコクでも たちのみやリッショクの もよおしもの なんかがあるようだ。まつりのときのやたいも、たちぐいである。あれは タブン たってないとたべられない。すわるどころなんて すくないから。そうすると、あるきぐいもでてくるだろうが たしかに そういうことも やっていたりする。ただベントウなんかは あるきぐいするのはむずかしい。たこやきならいいが、おこのみやきもむずかしい。そういうむずかしいのはあるきぐいしないのだろうとおもう。

ニヒャクヨンジュウニ

エイヨウにきをつけないと、つついチュウカそばなんかをたべてしまう。わたしのガクセイジダイもビンボウだったので、うどんとかを たのんでしまっていた。それでもはらにたまるから よかったといえよ よかった。それだけ、やすいつてことはミリョクテキなのだ。たちぐいそば なんかもよくたべた。あと、いいみせといえよ ハンバーガーや。ゴヒャクエンでニクもたべられた。ギョウドンやもあったが、やすめないのていかなかったりした。それとサイキンは ハンバーガーやでもタバコがすえなくなったりするようになった。ちょっとザンネンである。

ニヒャクヨンジュウサン

「キカンサンギョウ」とはなにかとかがえると、いえをつくるとか ノウチをたがやすとかドウロをつくる、さかなをつかまえる、みずをくむ、ネンリョウをジュンビするだろうか。そのむつつがしっかりしていると こまらない。それにくわえてそれらのサギョウをケイゲンするしごととか、くるまだろうか。ジブンなんかはアンガイそういうことをかんがえるのがおそかった。そういうギョウカイでベンリなセイヒンをつくるともうかるんだらう。こどもに ヘンにエイゴをベンキョウしろとかいうより そういうことをか

んがえさせたホウがいいかもしれない。

ニヒャクヨンジュウヨン

サイキンは、デンサンキとニンゲンのショウギ タイキョクをしているらしい。「らしい」というのはジッサイに みたことがないからだ。でも かんがえてみればサンジュウネンまえから、ガメンあそび（ビデオゲーム）でショウギをやることができた。わたしはふたつあったが、ひとつはラクショウするようになり、もうひとつは シッパイするとまけるようだ。デンサンキでも できるらしいから ヨコウができたらとおもっている。ユウダンシャも まけるといふから そうとうつよいのがあるんだろう。

ニヒャクヨンジュウゴ

デンサンキは チュウドクセイがあるというはなしがあった。タブン、ガメンあそびとかデンブンコウカンとかして いて くせになるんだとおもうが。わたしもジュウネンまえくらいにホンなどを ガメンをつかったエンカクとりひきでかうようになった。すきにケンサクできて、カダイにあいそいなホンをさがせるから よいとおもう。わたしも ナンカイかの ソウサでホンがかえるから ついついかってしまうことがある。しかたないので、ジブンよのかいもの チュウモンガメンをつくった。それでチュウモンしても、かいものはすすまず、ホントウにヒツヨウかをギンミできる。そうやって ムダなシシュツをへらしている。

かきはじめて イチネンほどで ハッピーョウすることになった。そもそもハッピーョウするとはおもっていなかったが、ハッピーョウするにいたった。キョネンのくれからシッピツをカイシし、ことしのジュウイチガツまでシッピツはつづいた。ジュウイチガツチュウには ダッコウをおえシュッパンするはこびとなった。はじめてのズイヒツボンがシュッパンできたことを カンシャしたい。

ニセンジュウゴネン バンシュウ

エイゾウ

アルクカラ カンガエル

db001-6f

ニセンジュウゴネンジュウニガツミツカ

ニセンニジュウネンサンガツジュウサンニチ

アイアイアイティオージーエー ビーレイレイイチ ロク

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

『アルクカラ カンガエル』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
